

コロナ禍におけるこれからの大都市の観光について —水都東京の新たな視点—

法政大学特任教授 陣内秀信



都市文明、メガシティの反省 ニューヨークの原風景

When Manhattan was Mannahatta: A Stroll Through the Centuries - The New York Times

Michael Kimmelman(建築評論家)



A recreation of Mannahatta circa 1609. Markley Boyer/The Mannahatta Project, via Wildlife Conservation Society



Lower Manhattan in the early 21st century. Stephen Amiga/Wildlife Conservation Society



ブルックリン橋のたもとの公園

パンデミックを経験したニューヨークでは、
公園、水辺など、戸外空間の価値が高まっている

グローバル化
新自由主義のもとでの都心集中
高層ビル群

⇒

緑・水のゆとりのある都市空間
ウォーカブルなまち
スピードのスローダウン





江戸：自然と共生する都市

鋤形蕙斎 「江戸一目図屏風」 19世紀初め
(津山郷土博物館蔵)

歌川広重「名所江戸百景」 水辺を描く名所が多い

水辺、オープンスペース、ゆとり
都市と自然、田園が密接につながる
マイクロ・ツーリズムを先取り



佃島



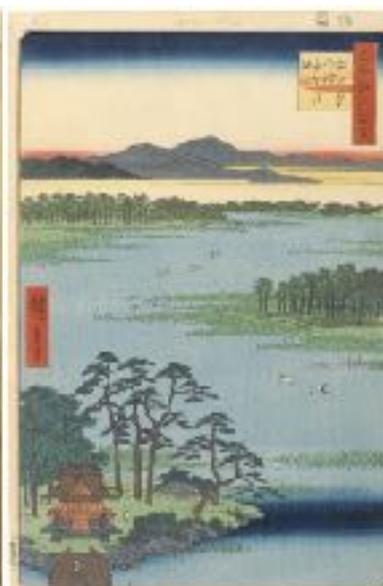
上野



亀戸天神



神田川関口



井の頭池



水の都市の価値の再発見 1980-現在

ヴェネツィア経験が生きる



「東京エコシティ ——新たなる水の都市へ」展

Urban Ecology - Tokyo Water City



KE-001-000100-7016

会期：2006年1月27日(金)～3月5日(日)

開催時間：9:10～17:10(入館は23:00まで)

入館は閉館の30分前まで。ただし、休館日は変更あり

会場：江戸東京博物館 常設展示館2階 水と公園展示室 (増設展示室である覧になれます)

主催：東京都江戸東京博物館

共催：筑波大学大学院都市地域デザイン研究科/東京大学大学院工学系研究科

協賛：独立行政法人都市整備機構/株式会社国土院/東京ガス株式会社/

株式会社三井物産/株式会社積水ハウス/三井住友建設株式会社/三井物産株式会社/

協賛：千代田区/中央区/独立行政法人都市整備機構/国土院/国土院/

協賛：国土院/国土院/国土院/国土院/国土院/国土院/国土院/国土院/

【入館料】

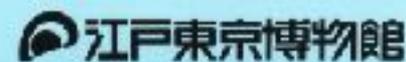
■1日券 大人 1,000円 小学生 500円

■2日券 大人 1,800円 小学生 900円 (1月27日～28日/2月1日～2日)

■東京バス/丸の内線/丸の内線/丸の内線/丸の内線/丸の内線/丸の内線/丸の内線/

お問い合わせ：TEL 03-3266-2474

http://www.edo-tokyo-museum.or.jp



オーソドックスな東京＝水都論

今日は、それを超えて!

東京に秘められた水都としての可能性



東京スカイツリーの意義 水の都市の復権

鋤形蕙斎 「江戸一目図屏風」 19世紀初め
(津山郷土博物館蔵)



都市のイメージ

我々は江戸っ子と同じように
現代東京を眺められる

■水都東京を、江戸以前に遡って考えよう

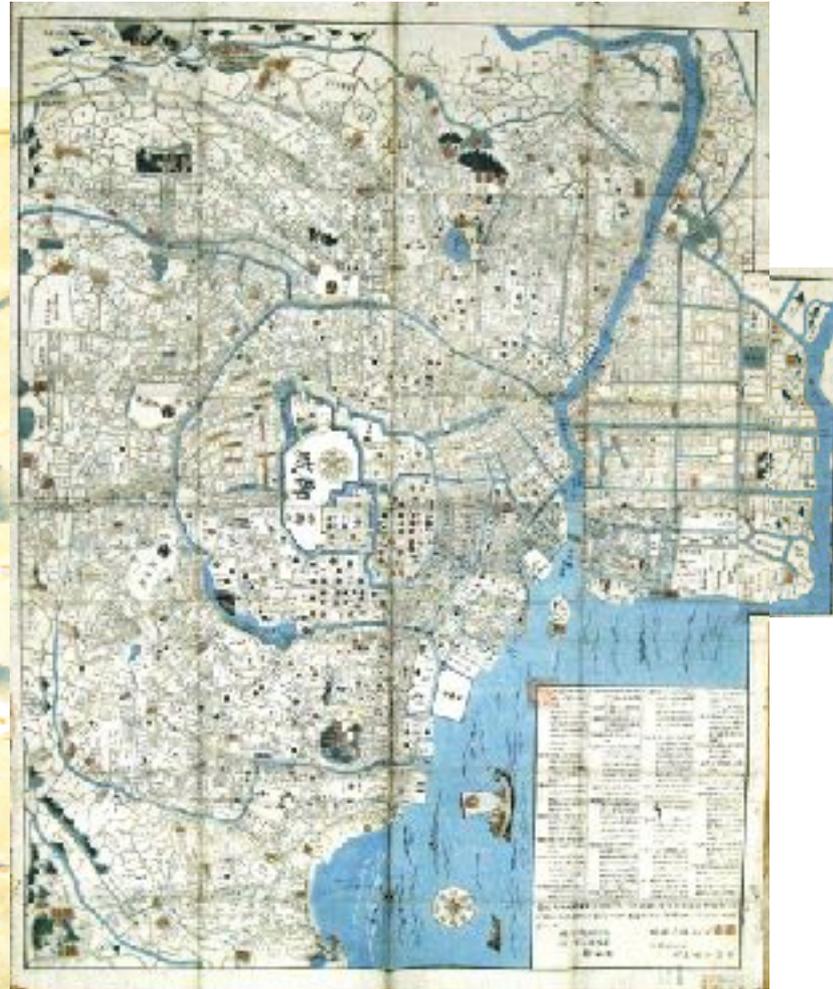
隅田川：都市の外縁部に位置しながら、何故、江戸東京の「母なる川」に？

古代・中世へ遡る必要



寛永20年（1643）頃

「寛永江戸全図」（臼杵市教育委員会蔵）



嘉永5年（1852）

「大江戸図」（野田市立図書館蔵）

しかし母なる川 神話化 古代・中世の伝承・物語

「隅田川兩岸一覽」
鶴岡廬水(1781)

都市の誕生以前に遡る原点、信仰に結び付く

梅若忌(平安中期)

木母寺が舞台

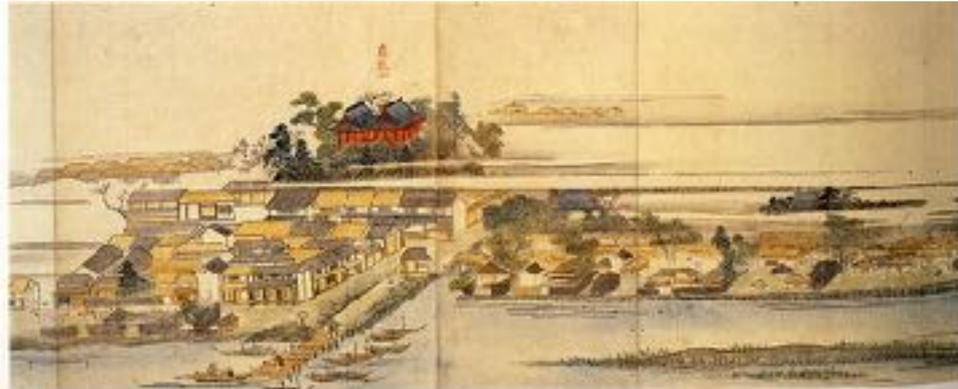
謡曲『隅田川』に出てくる梅若丸(吉田少将の子で、
人買いに誘拐され、隅田河畔で病死)の霊を供養する祭

待乳山(595年に龍が出現し守護)

浅草寺縁起(628)



隅田川の聖地等に指さす。本寺「隅田川御社」梅若寺(木母寺)御堂川とそこにかかる延壽橋がみえる。



魚沼川の聖王と名取。みこに参る寺の御堂もみえる。手前は竹屋の跡。



である。大川橋(吾妻橋)を渡り、北に浅草寺の燈籠塔を見え。

川の不安と魚沼の舟を遠くにのぞみ。

江戸 飲料水、農業、漁業、舟運・商業活動、生産、宗教・儀礼・祭礼、
レクリエーション、演劇、観光、アメニティ、風景 等
宗教施設の分布 江戸 行楽地化 遊びの場に 洪水から守る
禊ぎ、水上・海中渡御、



水辺の演劇・遊興空間



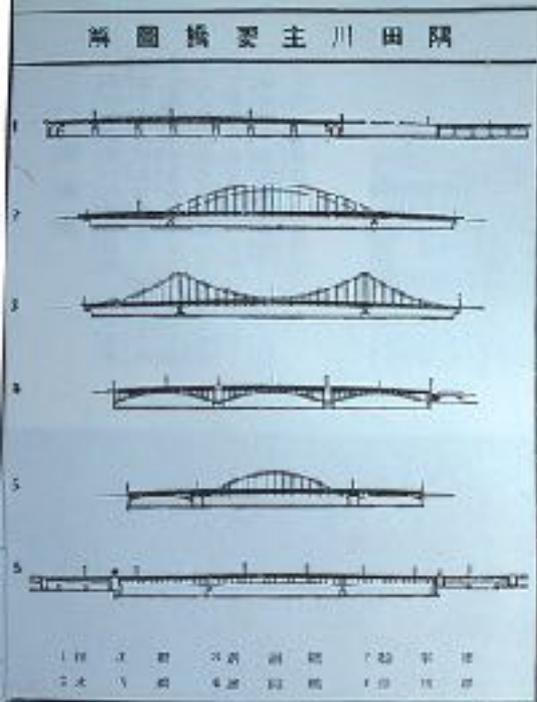
三社祭 水上渡御

「江戸名所図屏風」(部分) 出光美術館蔵



「隅田川図屏風」18世紀前半 大山詣前の水垢離(無事と悪病の退治を願う)

歌川春信「浮世江戸深川新大橋中須之図」
18世紀中頃 中洲成立前 (江戸博特別展「隅田川」図録より)



モダン東京の水の都市

震災復興事業：昭和初期



都市・人間・水が近かった



「河岸ぶちの家」

柳橋新聞 昭和33年10月15日 第9号12

提供:柳橋町会



水辺に栄えた柳橋の料亭街（台東区立下町資料館蔵）
1960年頃



両国花火 昭和35年 提供:柳橋町会



浅草周辺

1990年頃



隅田川蘇りのシンボル 歩行者占用の桜橋 1985年完成

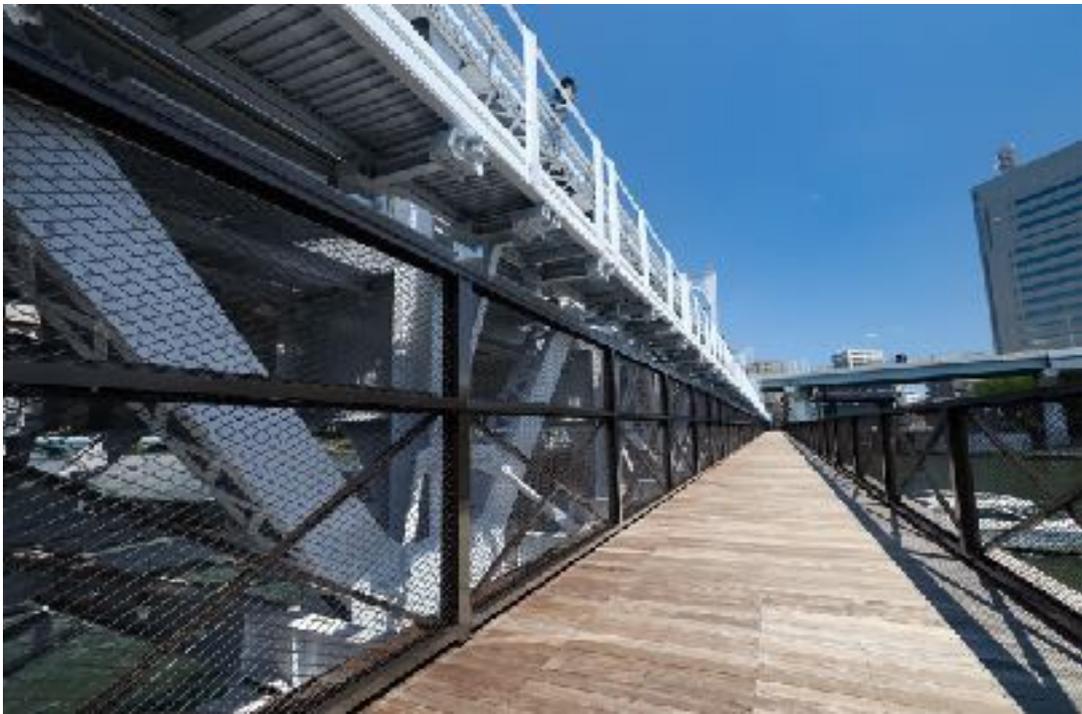


隅田公園オープンカフェ

撮影:鈴木知之



東京ミズマチ



すみだりバーウォーク

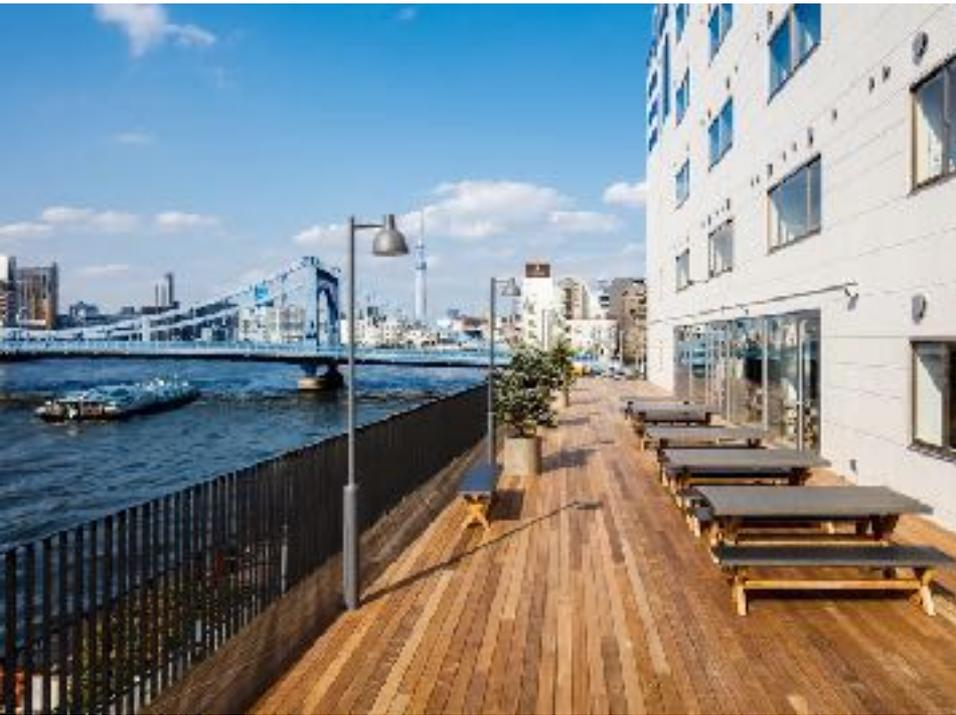
『LYURO 東京清澄 -THE SHARE HOTELS-』

が4月14日にオープン

築28年オフィスビルのリノベーション/コンバージョン

(株式会社リビタによる)

東京都の「かわてらす」制度を活用



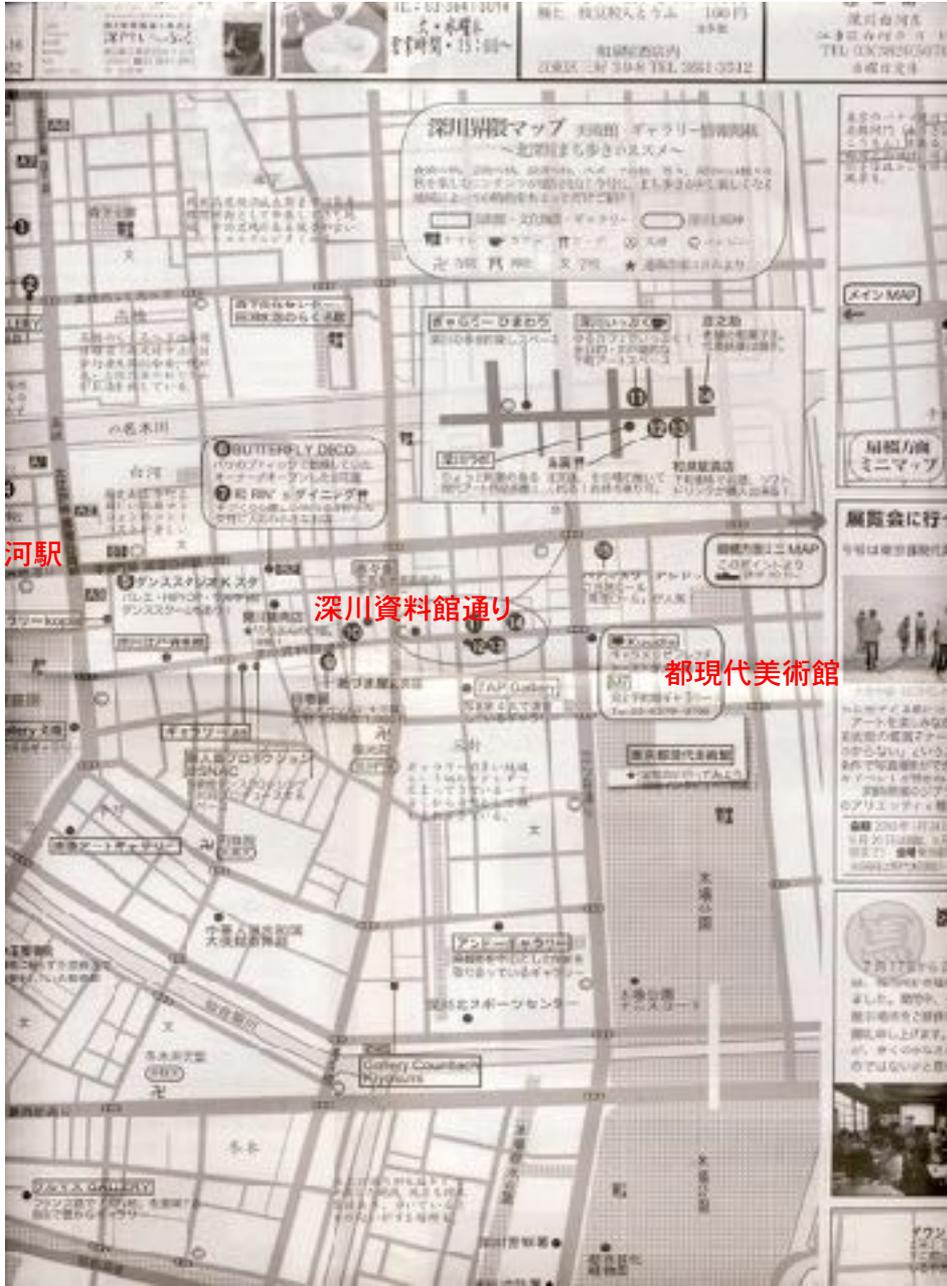
歴史的都市空間で最も活かすべきは、隅田川

江東区・清澄白河が今、面白い

清澄白河駅

深川資料館通り

都現代美術館



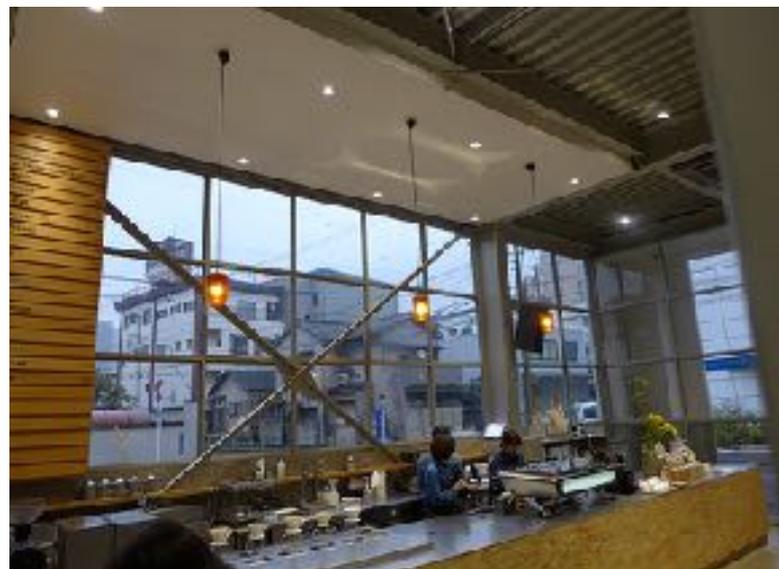
深川いっぷく コミュニティ・カフェ&ギャラリー

ALLPRESS ESPRESSO 清澄白河(2014.08～)

材木倉庫→焙煎所カフェ



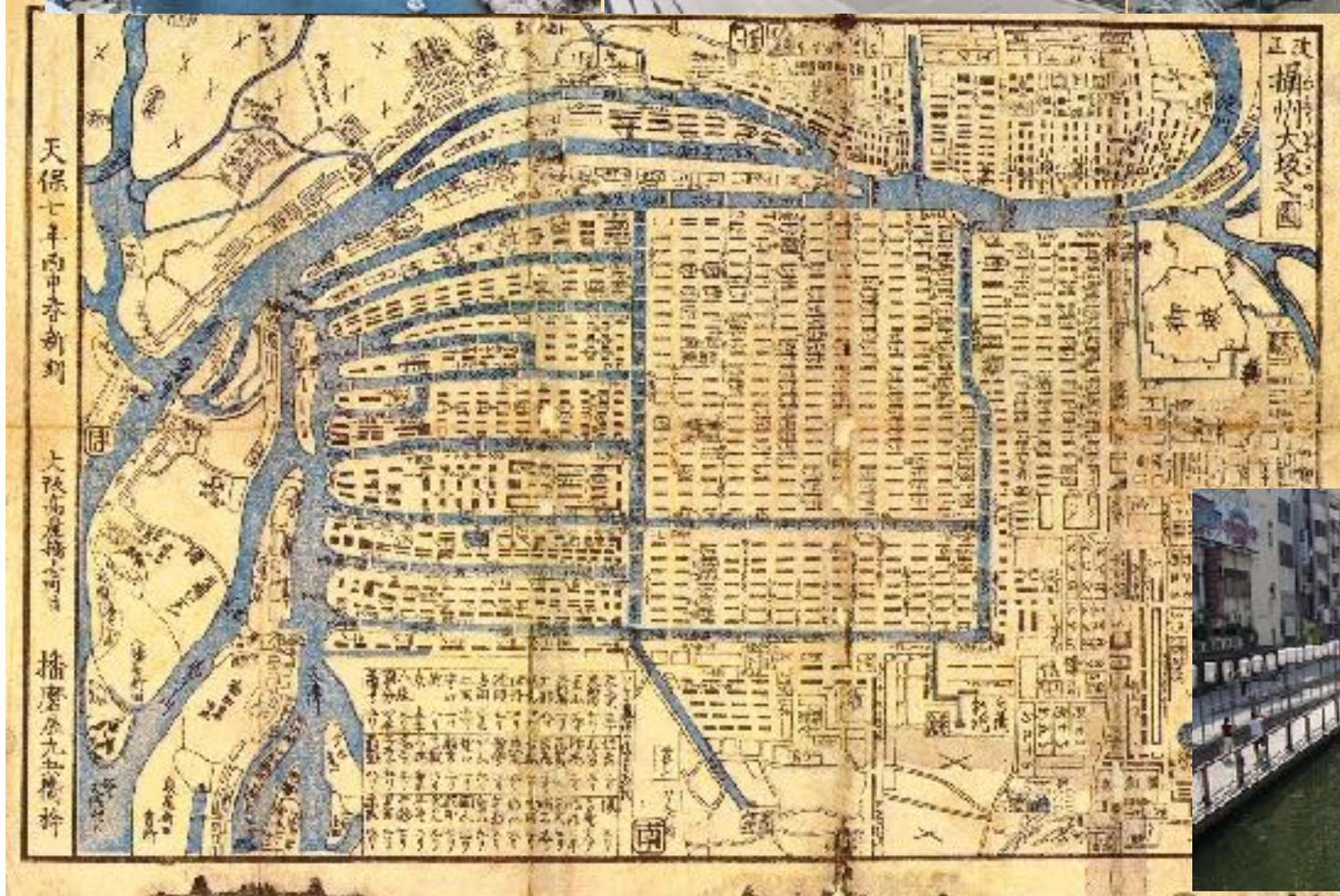
ブルーボトル 倉庫→焙煎所カフェ





水都大阪

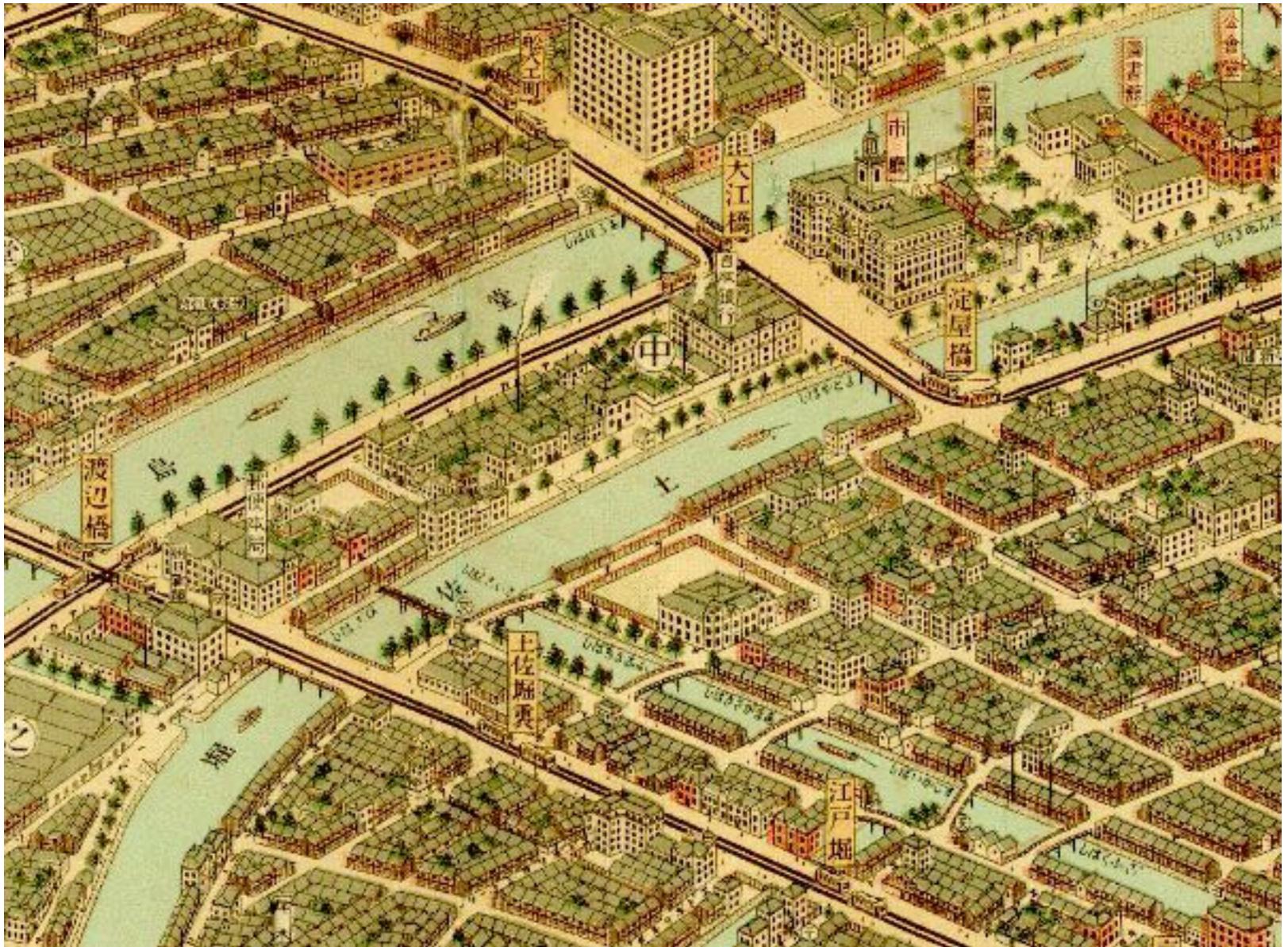
再生著しい



大坂の古地図

天保7年(1836)

大阪市立図書館蔵



「大阪市パノラマ地図」大正末

八軒家浜

Hachikenyahama

水都大阪 復権の象徴

2008年

八軒家浜船着場が開設



淀川舟運の要衝 京(伏見)と大坂を結ぶ 「三十石船」

八軒屋夕景 (浪速百景)

1800年代、歌川國員画

<https://ja.wikipedia.org/wiki/八軒家船着場>





野性味ある河川空間

淀川下り 水都大阪へ

穏やかな水面を楽しむ



閘門



都会的な水辺風景





道頓堀

天神祭の船乗り場



天神祭 水上パレード

一千余年の伝統

7月25日本宮の夜

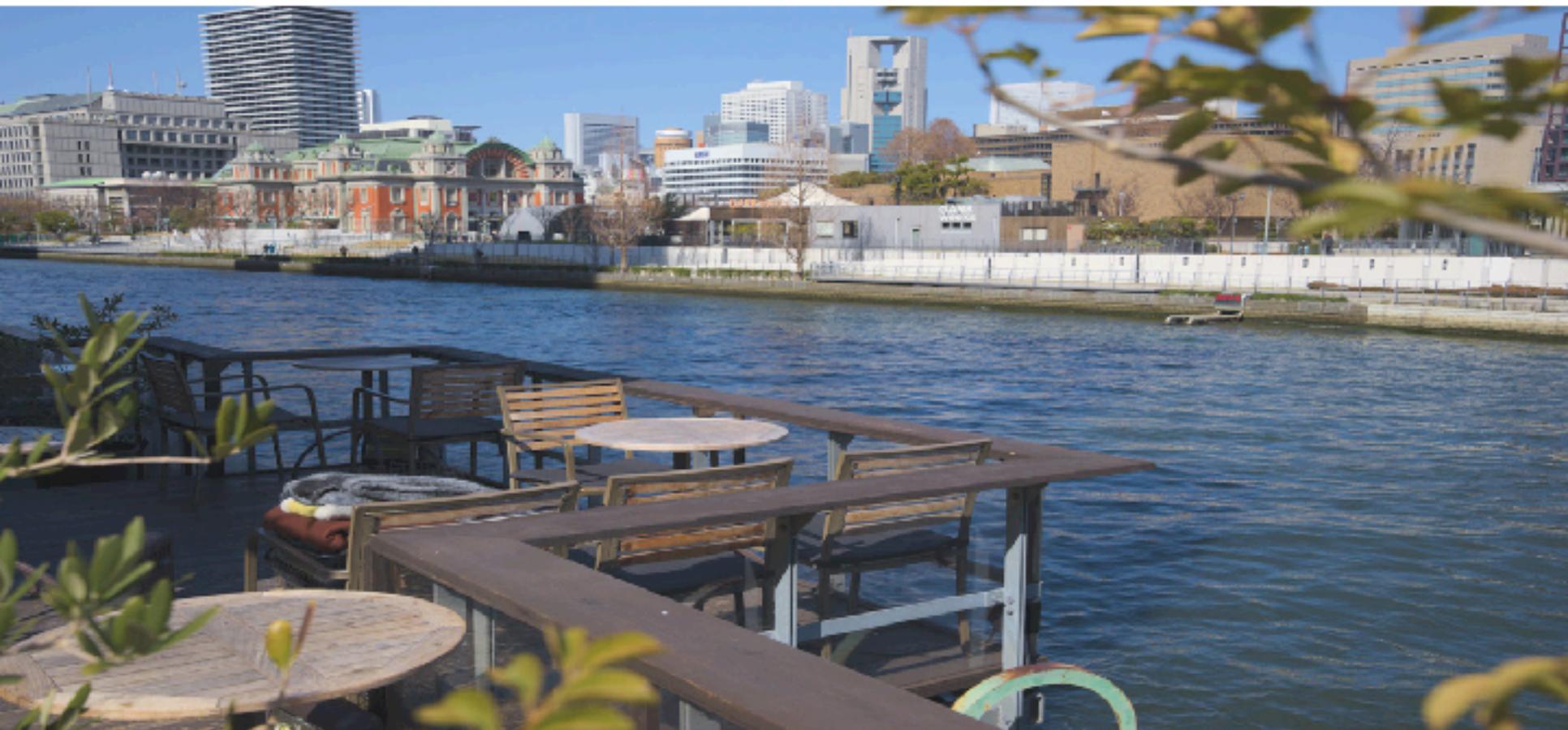
大川(旧淀川)で船渡御

奉納花火









大阪川床 北浜テラス



群島としての可能性



群島(島の集まり、たくさんの島を持つ海)

様々な形をした独特な島が互いに船で結ばれている。

ダイナミックに変化する文化的な景観や空間的な体験を楽しみながら、島から島への移動をすることができる。

フェリーによるネットワークを作ることは大切である。



<http://wangantower.com/?p=3607>

オリンピック・パラリンピックの競技会場 東京ベイエリアは
中

今後に可能性を秘める

バイエリアは実は歴史がある

東京湾漁場図

版二十五第 古紙表調場漁



東京湾漁場図

「東京湾漁場図」 明治41年 部分

国文学研究資料館史料館所蔵

干潟及び各海域での漁獲、漁法
が記されている

藻場

えび桁網 えび打瀬網 (うたせあみ)

特別展図録

『消えた干潟とその漁業
—写真が語る東京湾』

大田区立郷土博物館より



品川 元漁民のコミュニティ



水の中の行進（羽田）



信仰儀式は品川のローカル地域にある目黒川の流入口近くの岸に沿って行われた。しかし、川の流路が変わったことと埋立地の進展によって浅水が不足したことにより、儀式は羽田の沖に向かって移動し、お台場海浜公園の入り江で行われるようになった。

目黒川 棧橋



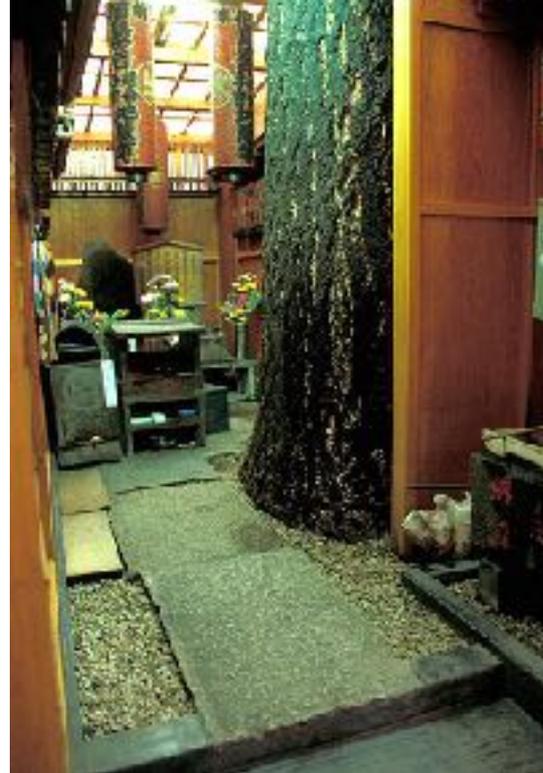


佃島

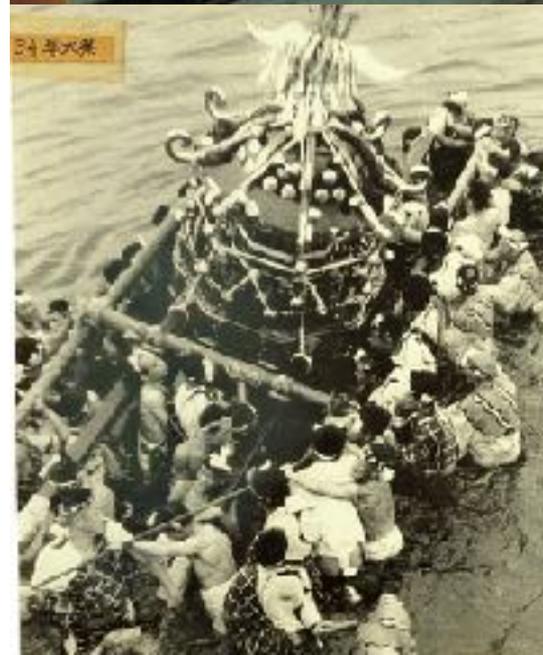
元漁村



リバーシティ21との共存



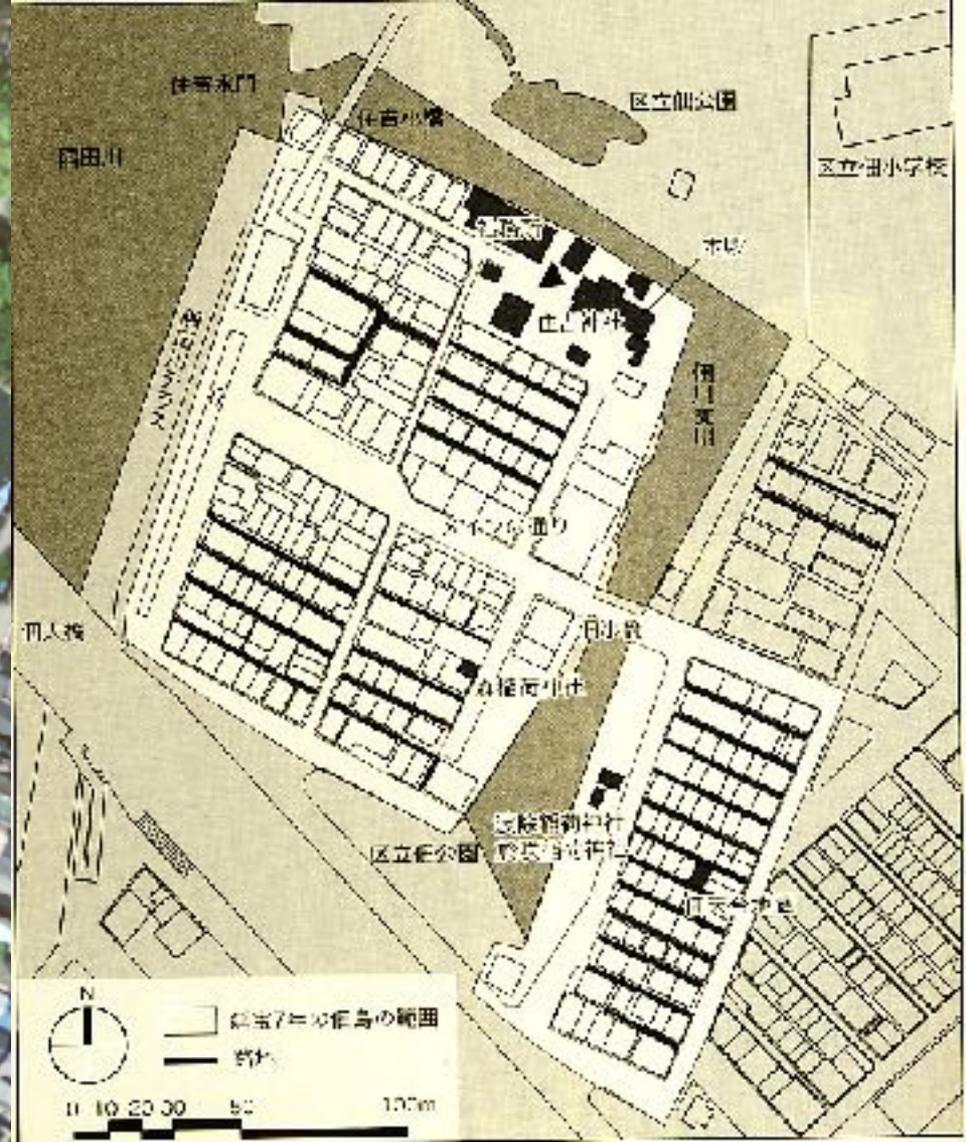
地蔵の祠



海中渡御



Google Earth



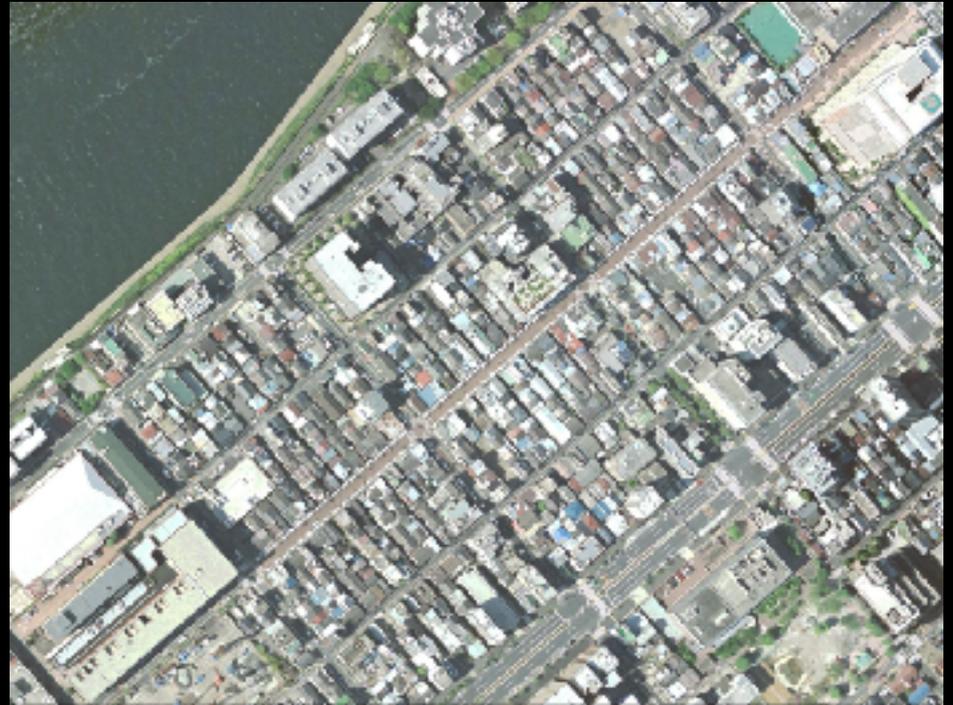
(by Satoshi Okamoto)

元々の都市構造と古い建物がよく保存されている



第三台場





月島：明治時代中期(1890年代)からの埋立人口島

隅田川は、砂や土の堆積を適切な状態に維持するために、絶えず浚渫される必要があった。この堆積物は月島を作るのにつかわれた。月島の最初のゾーンは1892年に完成した。

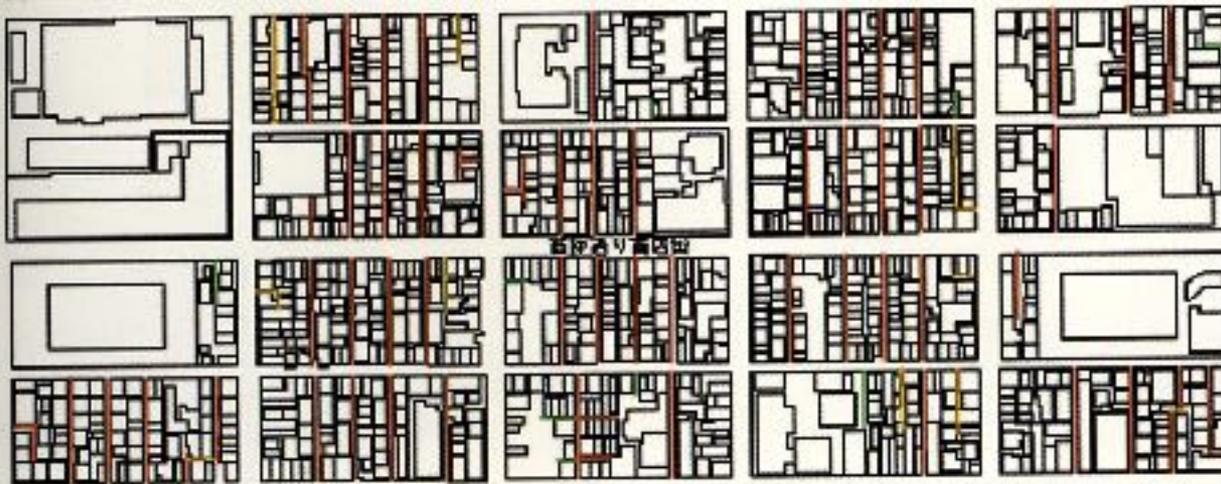


図3 月島の路地の現況

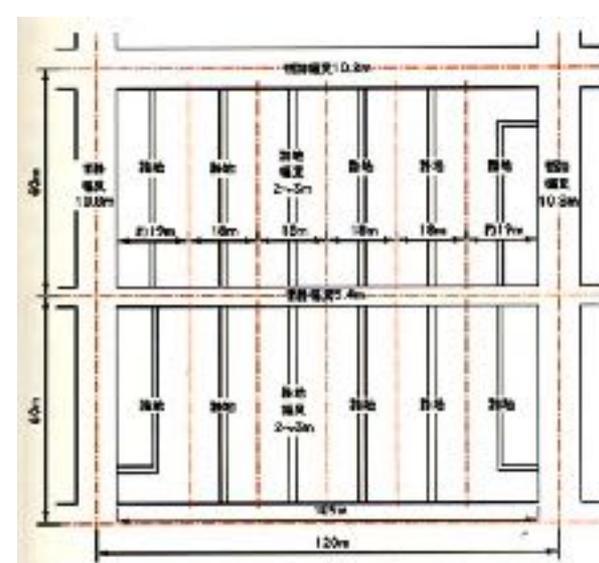


図2 月島の標準的な設計

(by Akihide Shimura)
(志村秀明氏による)



図1 1896年 東京郵便電信局編東京区各町の秋の月島

整然とした路地による 月島の 近代的な都市構造

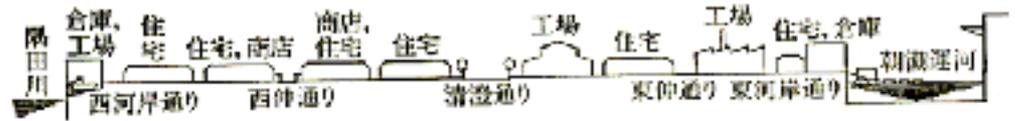
長々としたまっすぐな通りはそれぞれ平行に通っており、広いエリアを覆う計画された碁盤目状の通りの軸として機能している。これはとても近代的な見ただ目をしている。しかし、路地に面した町家の建て方、通りの正面の後ろ側の規則正しい路地、家屋の後ろの街並みは江戸時代の商人の町

倉庫
工場

商店 住宅



月島の変遷模式図 何もない埋め立て地に、工場と住宅が建ら始める



活気溢れる月島である。高密度ではあるが、ディベロッパー型の開発ではなく、人々が自分たちで町をつくりあげていった誇りがある。月島の成長と同じ時期に、東京の郊外には、開発型の住宅地がつけられた。歴史の二面性といえる



工場跡地にはマンションが建つ。月島にとって第三世代である。近代都市計画家は、月島のような高密度な地域をやたらとクリアランスしたが、その通りにしてよくなったためしがない。現代にあってこそ月島は意味を持つのである



前面：メインの商店通りに沿って



背面：路地に沿って

娯楽街 登場

工業エリアとともに埋立地に



旧協同会館(芝浦)

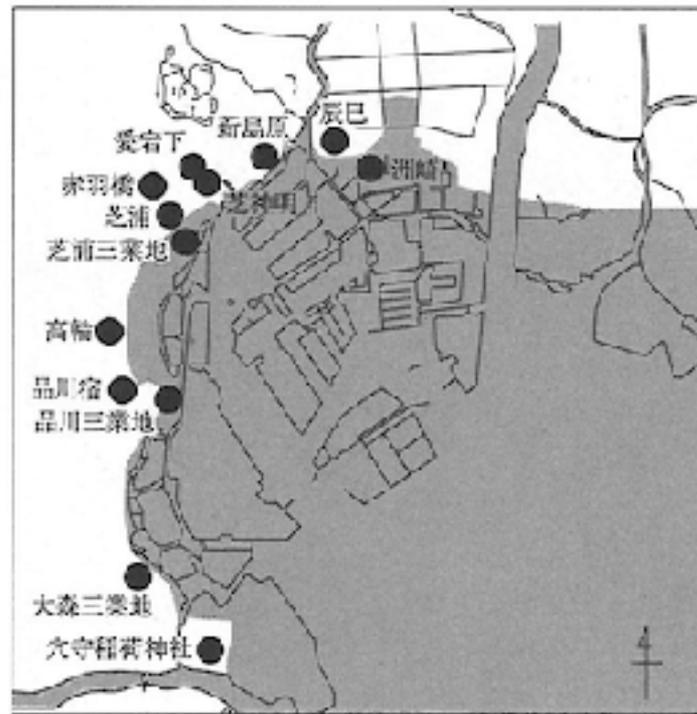
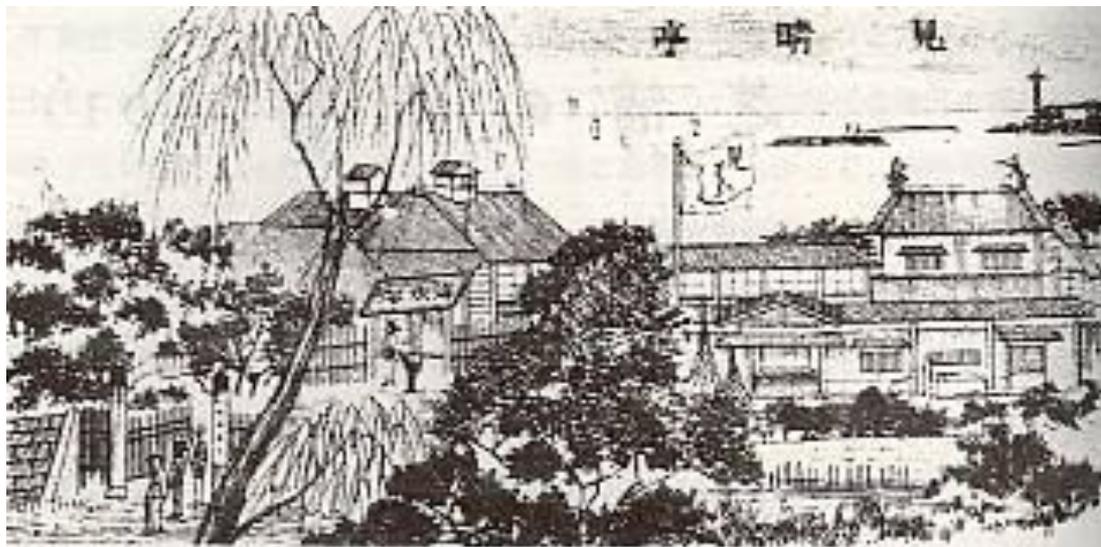
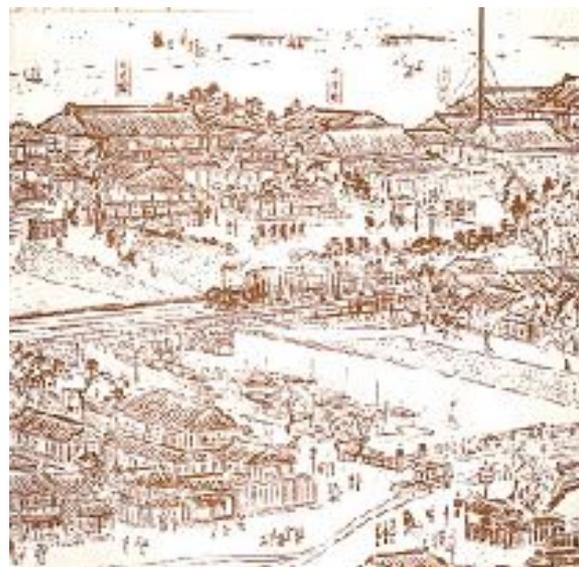


図 4-5 盛り場・遊里の分布図



明治時代の芝浦



娯楽街：料亭/温泉

運河を残して埋立て

ここにも水網都市

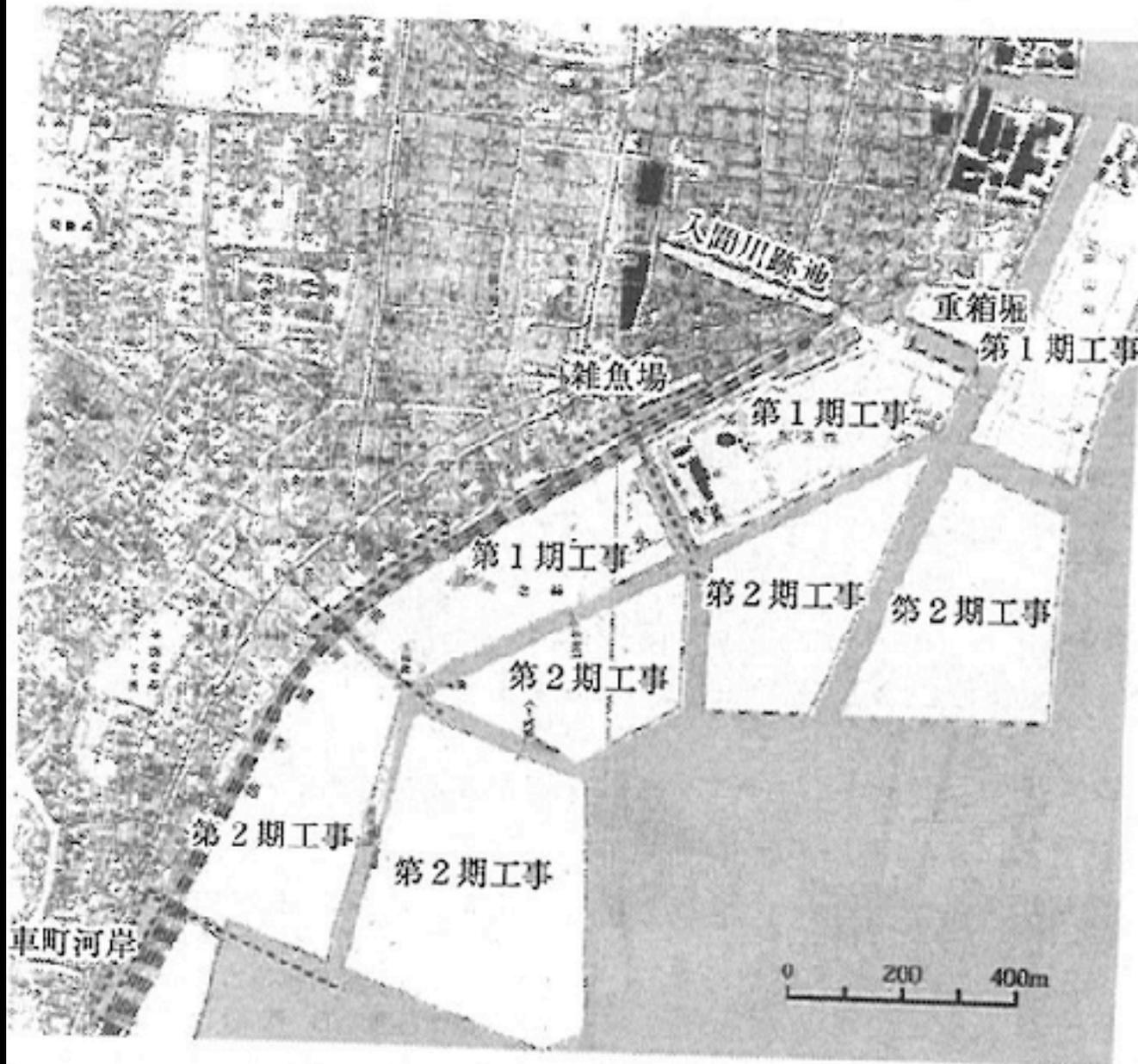
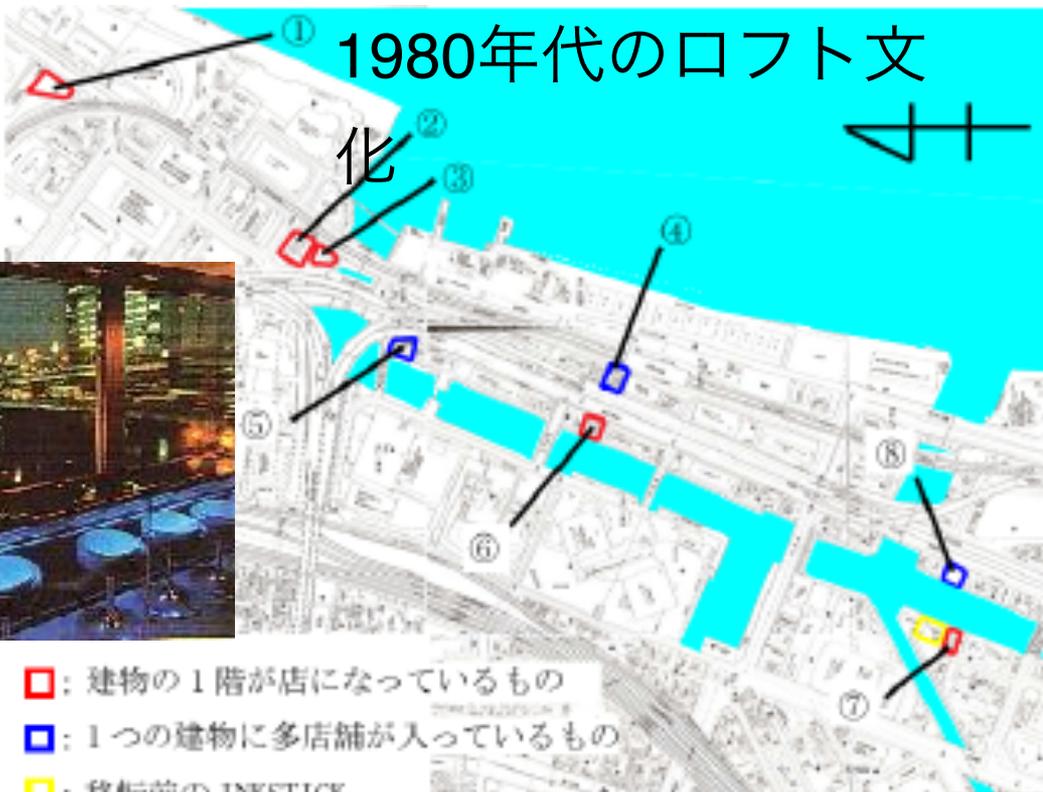


図4-13 第一期、第二期河口工事に伴う芝浦の埋立地建設 (吉田峰弘作成)

倉庫の現代の用途への転換



1980年代のロフト文化



- : 建物の1階が店になっているもの
- : 1つの建物に多店舗が入っているもの
- : 移転前の INKSTICK と TANGO

景観の分類

水辺の景観を楽しむ②、③、④、⑥、⑦、⑧

夜、高速を走る車の光の列を楽しむ①、③、⑤

アプローチの分類

電車などの陸の交通機関を使用①、②、③、④、

⑤、⑥、⑦、⑧



水の都市の再生

80年代前半

ロフト文化

文化活動

ギャラリー、レストラン、ディスコ等



芝浦の運河



T.Y.HARBOR 寺田倉庫



臨海部副都心開発基本計画の図（1988年）（東京都企画審議室作成）

海中渡御



現代都市 東京の真ん中で神輿が水に入る

品川荏原神社の海中渡御 6月
(法政大学エコ地域デザイン研究センター所蔵)



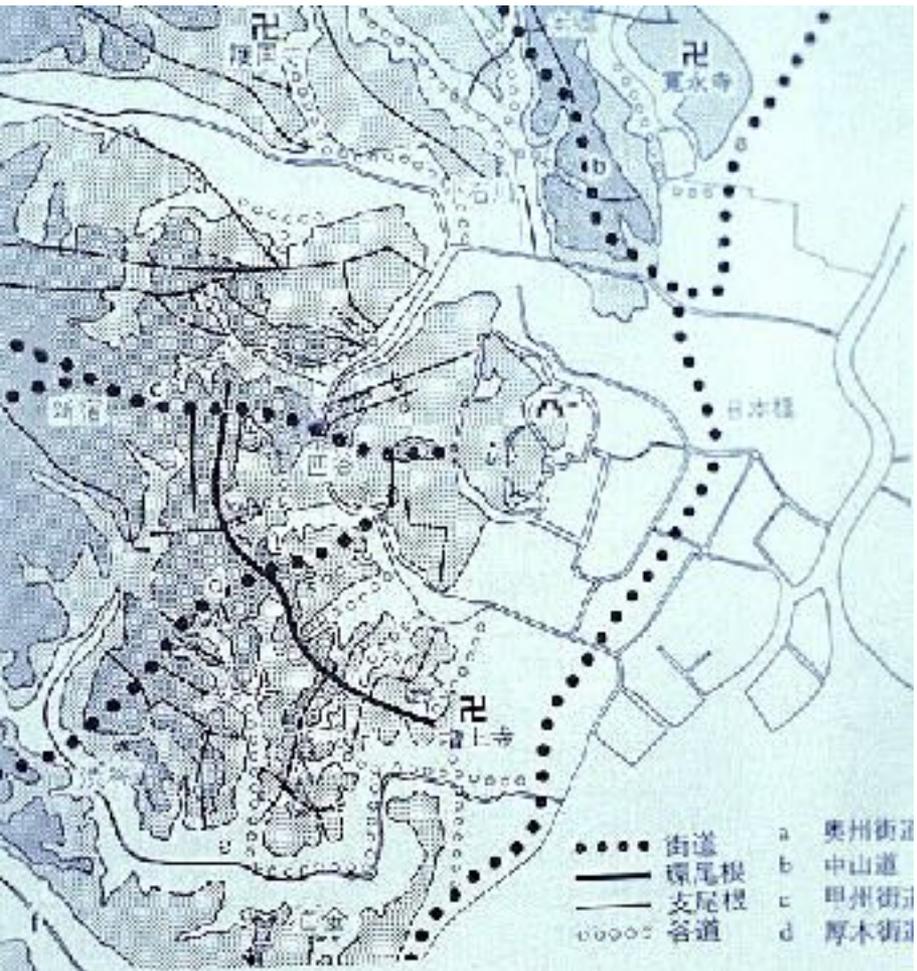
1983

現在

自然が戻りつつある



東京の水都概念を拡大・発展 江戸城/皇居、山の手、武蔵野、多摩へ



道路と地形の関係



皇居

地形/水を活かした都市づくり

東京の有機的な都市システム



明暦の大火前の
天守閣



天守台

江戸城/皇居



江戸城本丸へ



内濠:半蔵門や九段あたりの地盤が高い

千鳥ヶ淵と牛ヶ淵が周囲に比べ低い

鈴木理生氏⇒淵は小さな川の上流からの水を貯めてできた水面を意味する

法政大学市ヶ谷校舎 ● の
建替え工事に伴う発掘調査

旧紅葉川の小さな流れ、谷筋
その斜面を切土
濠の底を掘った土で盛土



寛永期までの江戸城内濠・外濠の整備

(鈴木理生氏の研究に基づき岡本哲志氏作成)



自然を取り込む
贅沢な都心空間

桜の名所は明治以降
江戸+近代

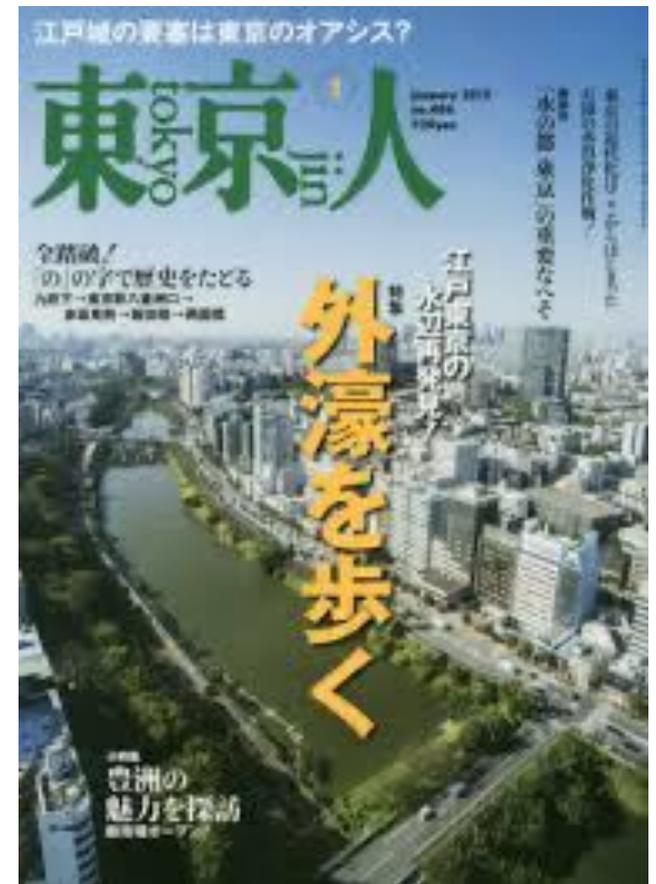
(Paolo Calvetti 撮影)



江戸城⇒皇居
千鳥ヶ淵



知られざる「外濠」 の魅力と可能性





四谷見附(枡形石垣一北側)



写真1 二品見附



写真2 五平見附



写真3 神楽見附



写真4 松平左衛門右衛門尉の土台遺跡見附



写真5 土台見附上端



赤坂見附



牛込見附



写真6 牛込見附下段隅石



写真7 北堀寄合口から見た赤坂見附石垣

外濠:御門/見附石垣

江戸の水系における外濠

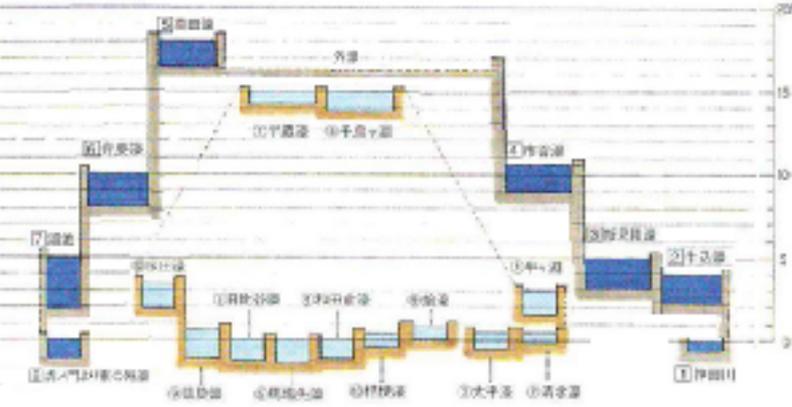
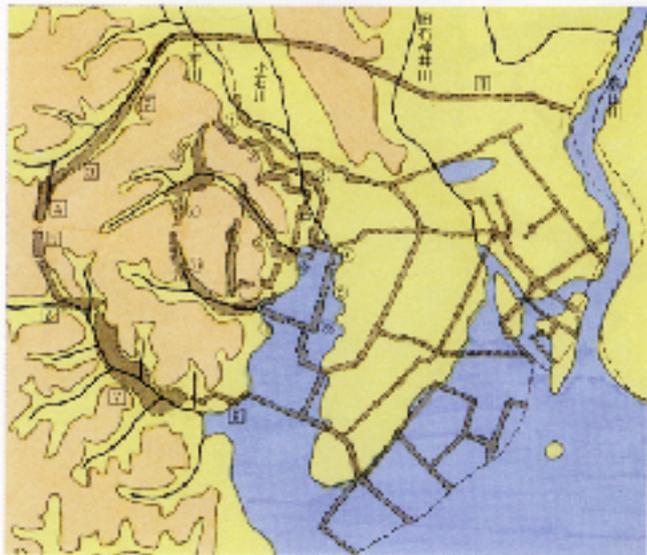
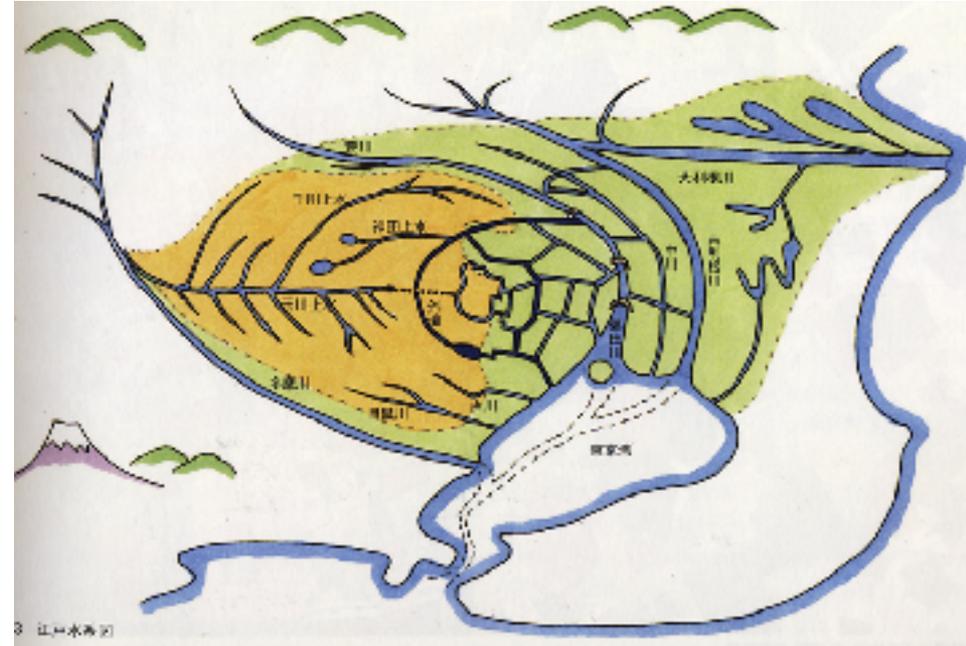


図1 外濠内濠断面構成



- | | | |
|-------------|--------|-------|
| 外濠 | 内濠 | |
| ① 神田川 | ① 牛込濠 | ③ 蛤濠 |
| ② 牛込濠 | ② 荒川濠 | ④ 柚樹濠 |
| ③ 新見附濠 | ③ 大手濠 | ⑤ 桜田濠 |
| ④ 市谷濠 | ④ 和田倉濠 | ⑥ 虹橋濠 |
| ⑤ 豊田濠 | ⑤ 馬場先濠 | |
| ⑥ 弁慶濠 | ⑥ 日比谷濠 | |
| ⑦ 溜池 | ⑦ 半蔵濠 | |
| ⑧ 虎ノ門より東の外濠 | ⑧ 千鳥ヶ淵 | |

図2 江戸城の濠と水系



江戸水系図 (神谷博氏による)

高橋賢一氏 <歴史・エコ廻廊構想>

外濠をその中心に



水上ジャズコンサート 外濠にて 法政大学エコ地域デザイン研究所主催

洋と和の組み合わせ



■山の手:水都東京の一端に

三田 大名屋敷を受け継ぐ庭園群

オーストラリア大使館

三井倶楽部

イタリア大使館 湧水・池





四谷荒木町



異界へ紛れ込んだよう

不思議なマイクロコスモス

東京スリバチ学会の聖地



明治時代の荒木町



上野

都心の名所

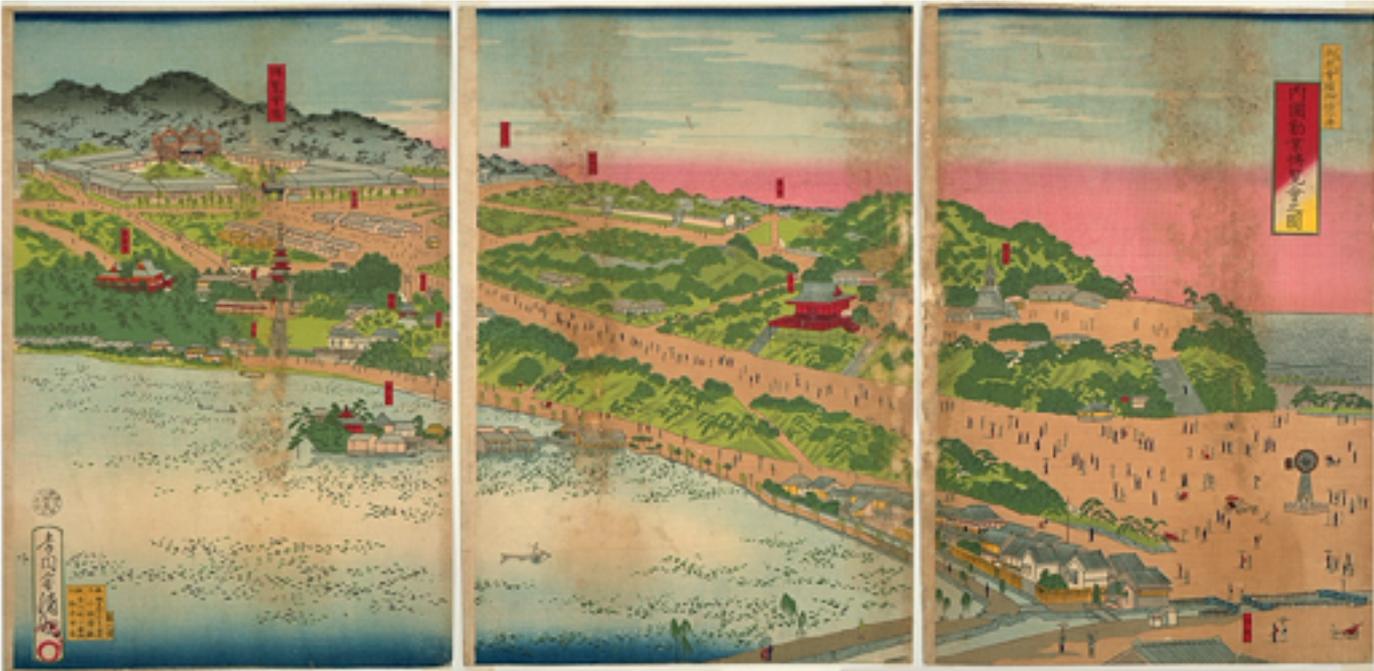
<山の辺>

+

<水の辺>



方円舎清親「内国勸業博覧会之図」1877年（国立国会図書館蔵）

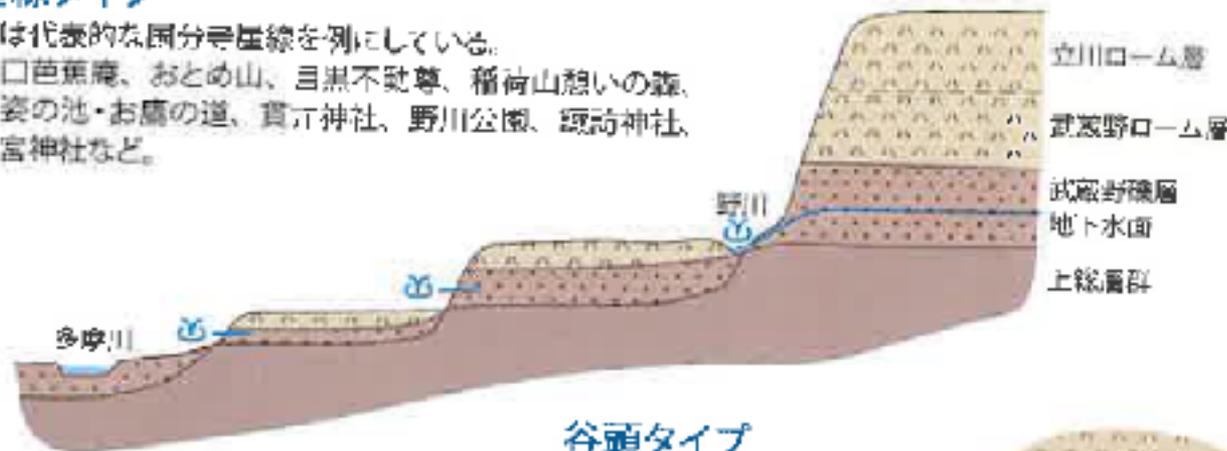


参謀本部地図 1884年

東京の湧水

崖線タイプ

図は代表的な国分寺崖線を例にしている。
 間口芭蕉庵、おとめ山、目黒不動尊、稲荷山憩いの森、
 真姿の池・お鷹の道、貫井神社、野川公園、観音神社、
 二宮神社など。



凹地滲出タイプ

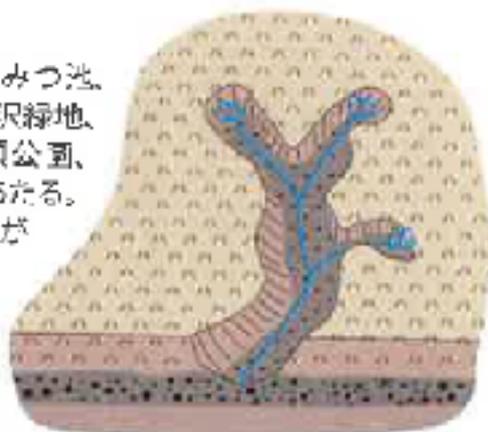
洗足池から流出する水路に
 滲出する湧水などがある。



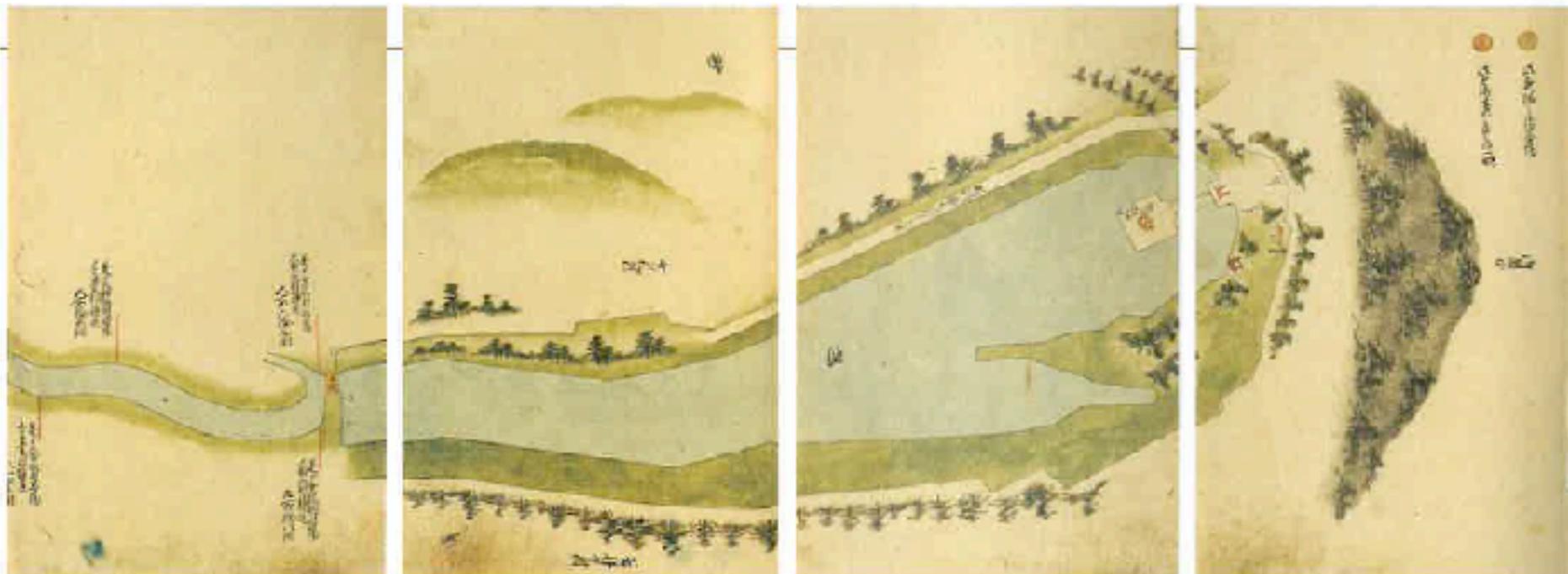
谷頭タイプ

清正の井、神明の森みつ池、
 赤羽自然観察園、南沢緑地、
 竹林公園、大泉井頭公園、
 谷戸の湧水もこれにあたる。
 また、廻れてしまったが
 井の頭池、善福寺池、
 三宝寺池など。

ローム層
 砂礫層
 泥岩



井の頭池 神田川(上水)



上水記 寛政3年(1791) 原資料 東京水道歴史館所蔵

江戸幕府の普請奉行上水方道方の石野遠江守弘道が天明8年(1788)から寛政3年(1791)にかけてまとめた、主に玉川上水と神田上水に関わる記録です。豊富な挿絵とともに、玉川上水の歴史、料金の徴収、水番の仕事といった管理方法などが普請奉行という立場から記されています。貴重な江戸の史料として東京都の文化財に指定されています。

本図は、神田上水の水源地井の頭池を描いています。池の周囲には木が繁り、西側には御殿山が描かれています。

神田上水の水源地 井の頭池



井の頭池

描かれた

井の頭池

+

弁財天

源氏一族との繋がり

+

水辺の宗教的神秘性

徳川幕府:家康、家光との結びつき

家康:入府に先立ち、水道建設指示

⇒ 小石川上水

それを発展、拡大整備して

神田上水 (1629年完成 家光の時代)

江戸中期に文人、学者が訪ね、

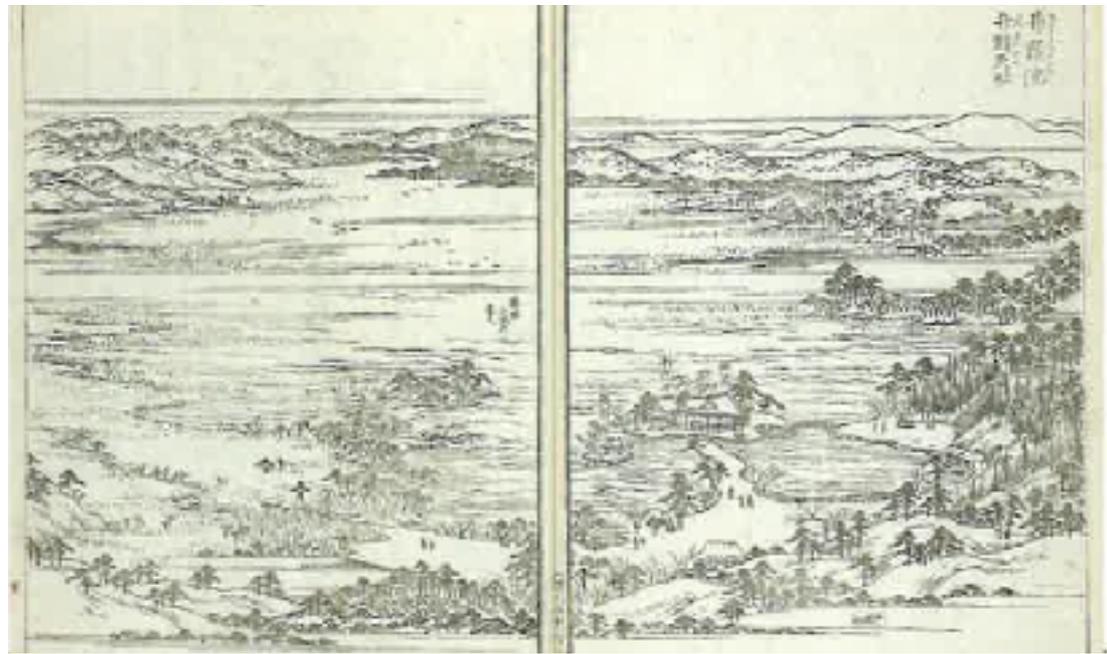
後期に名所化

歌川広重画

「名所雪月花

井の頭の池

弁財天の社雪の景」

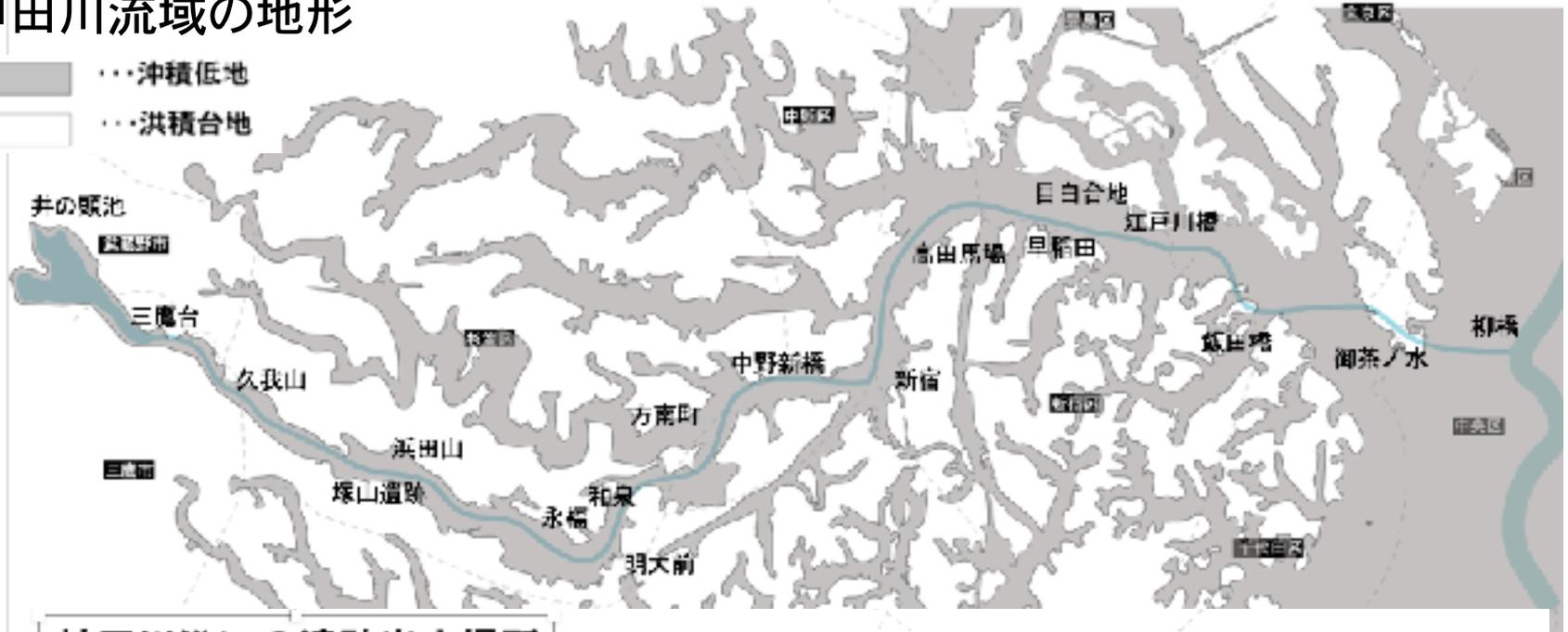


『江戸名所図会』

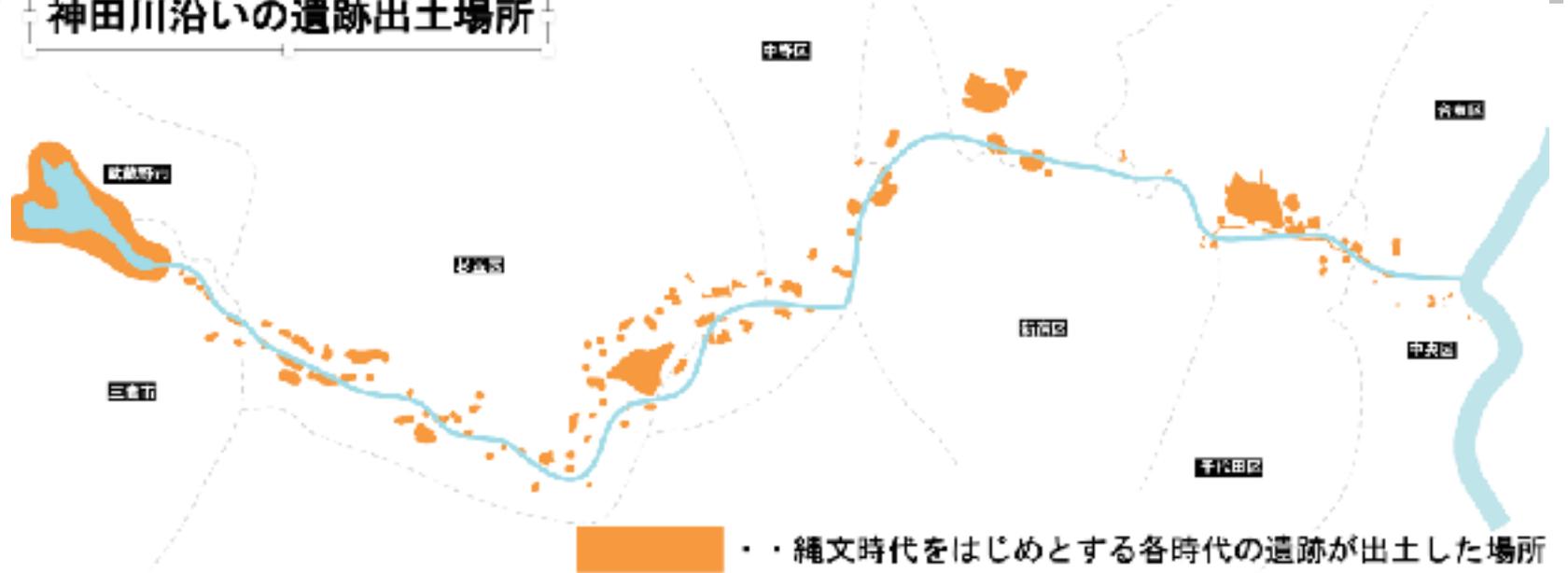


神田川流域の地形

- ● ● 沖積低地
- □ □ 洪積台地



神田川沿いの遺跡出土場所



● ● ● 縄文時代をはじめとする各時代の遺跡が出土した場所

目白



東京が誇る歴史的斜面緑地
神田川⇒水神社 湧水⇒大名屋敷の回遊式庭園



水+緑⇒歴史+エコロジー⇒「歴史・エコ廻廊」(エコ研:高橋賢一氏)

1883年



目白台下駒塚橋辺の景色

山本松谷「目白台下駒塚橋辺の景色」
『新撰東京名所図会』



現在の神田川 椿山荘附近



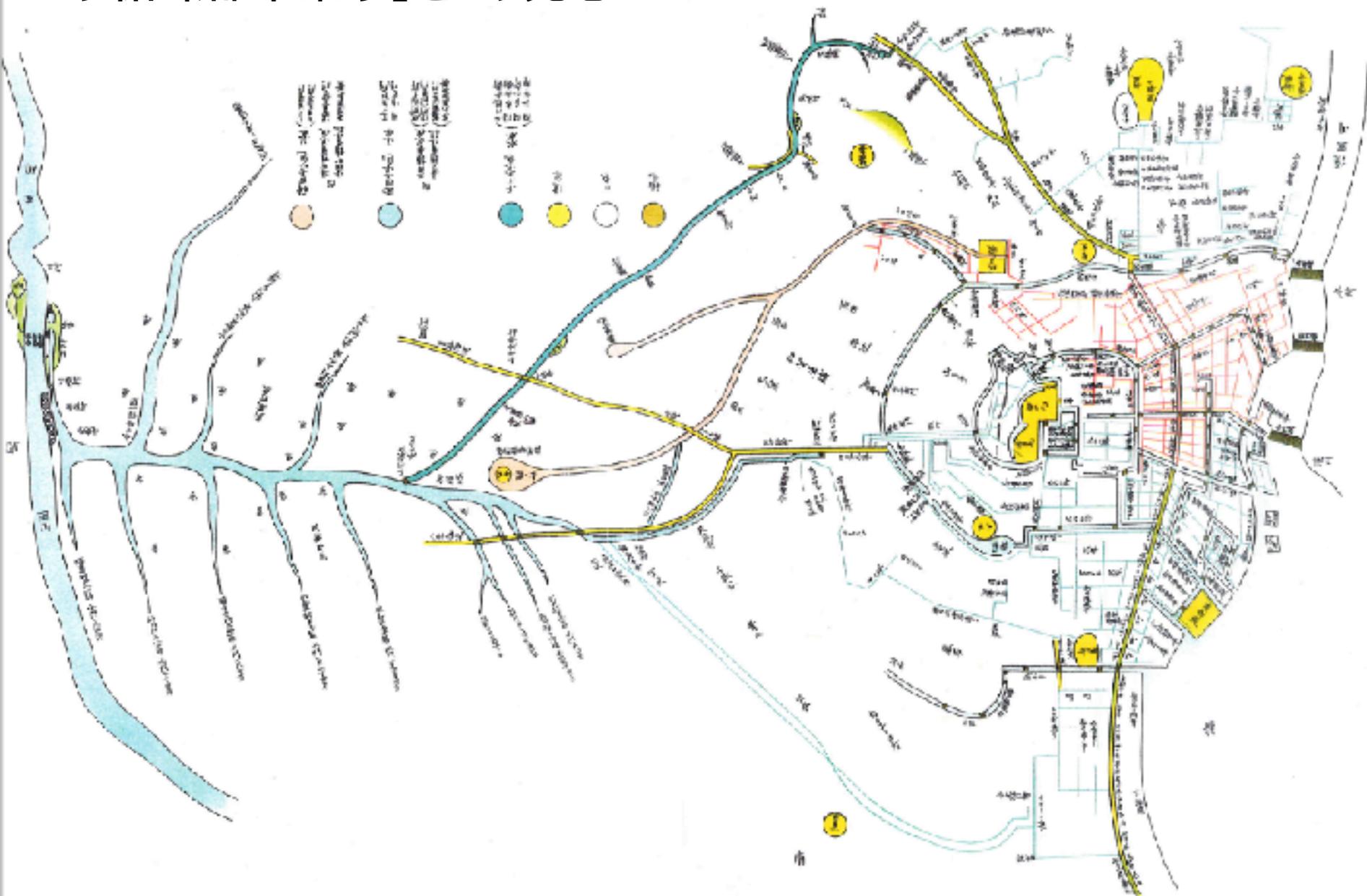
肥後細川庭園

細川家の下屋敷跡 一部が明治に細川家の本邸に



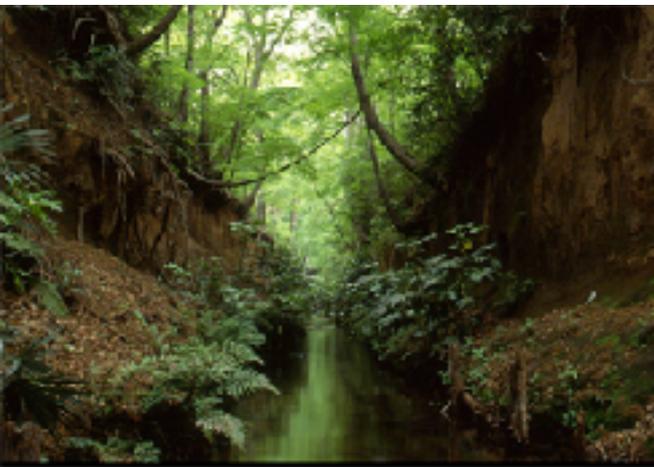
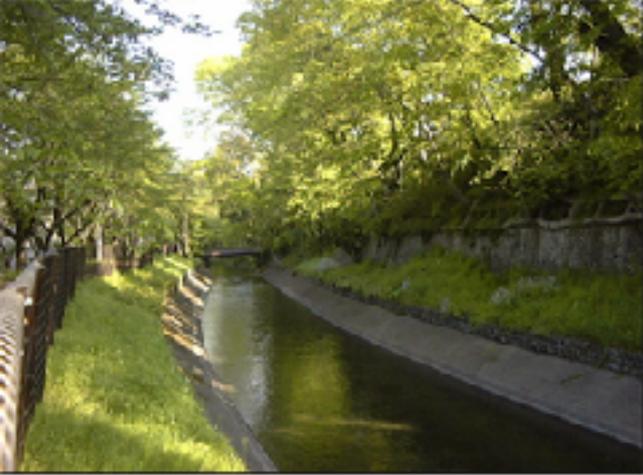
関口水神社

「水循環都市東京」という発想



玉川上水

歴史・エコ廻廊



武蔵野谷地に刻まれた水と緑の回廊

玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ

第1回 シンポジウム

日時：2015年5月29日(金) 15:30～18:30

場所：武蔵野スイングホール

主催：玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へ準備会

※協賛力提供：とびやう環境財団 武蔵野ユネスコ協会 玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会 武蔵野自然塾 玉川上水ネット 小平ユネスコ協会 杉倉ユネスコ協会 宇比谷江戸東京ユネスコクラブ 玉川上水・公園研究会
※協賛賛助機関：文化庁 国土交通省 環境省 農林水産省 東京都 埼玉県 関連自治体(19市15区)



武蔵野スイングホール 案内図

〒180-0022 東京都武蔵野市境2丁目14番1号

TEL: 042254 1313

JR中央線武蔵境駅北口徒歩3分



※準備会の紙版・説明書・連絡先等に案内も参照ください。

プログラム

第1部 講演 (15:30～)

挨拶：武蔵野市長 邑上 守正

趣意説明：岡田 貞壽(千葉大学名誉教授・日本自然保護協会顧問)

講演1：玉川上水・分水網を世界遺産に

青山 賢(明治大学大学院教授・兵庫県副知事)

講演2：未来遺産の考え方と玉川上水・分水網

西村寿夫(東京大学大学院教授)

講演3：重要な文化的景観地域指定と保全管理

本中 真(文化庁世界文化遺産アドバイザー)

第2部 市民の運動報告等 (17:15～)

(1) 玉川上水リニューアルから未来遺産申請へ

鈴木 利博(宇比谷江戸東京ユネスコクラブ)

(2) 玉川上・分水と武蔵野の集落・農地

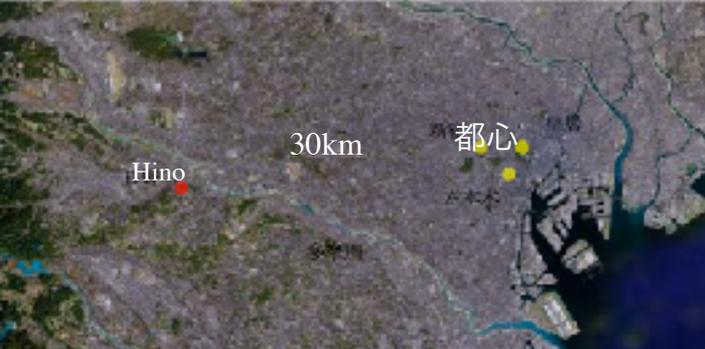
中屋 研光(玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会代表)

今後の活動方針

(1) 第1回シンポジウムのまとめ

谷下 智樹(中央大学教授)

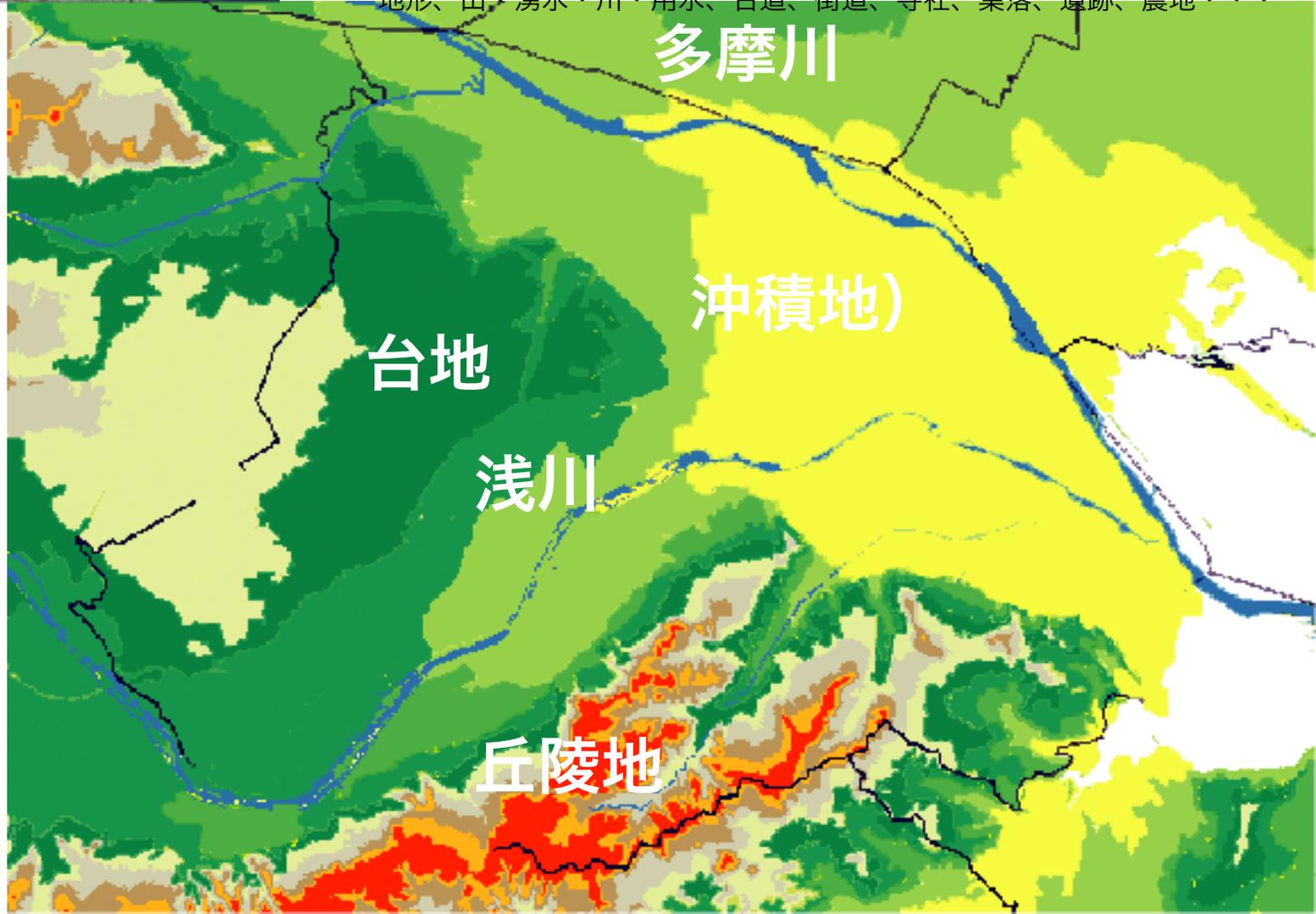
(2) 今後の活動方針について(事務局)



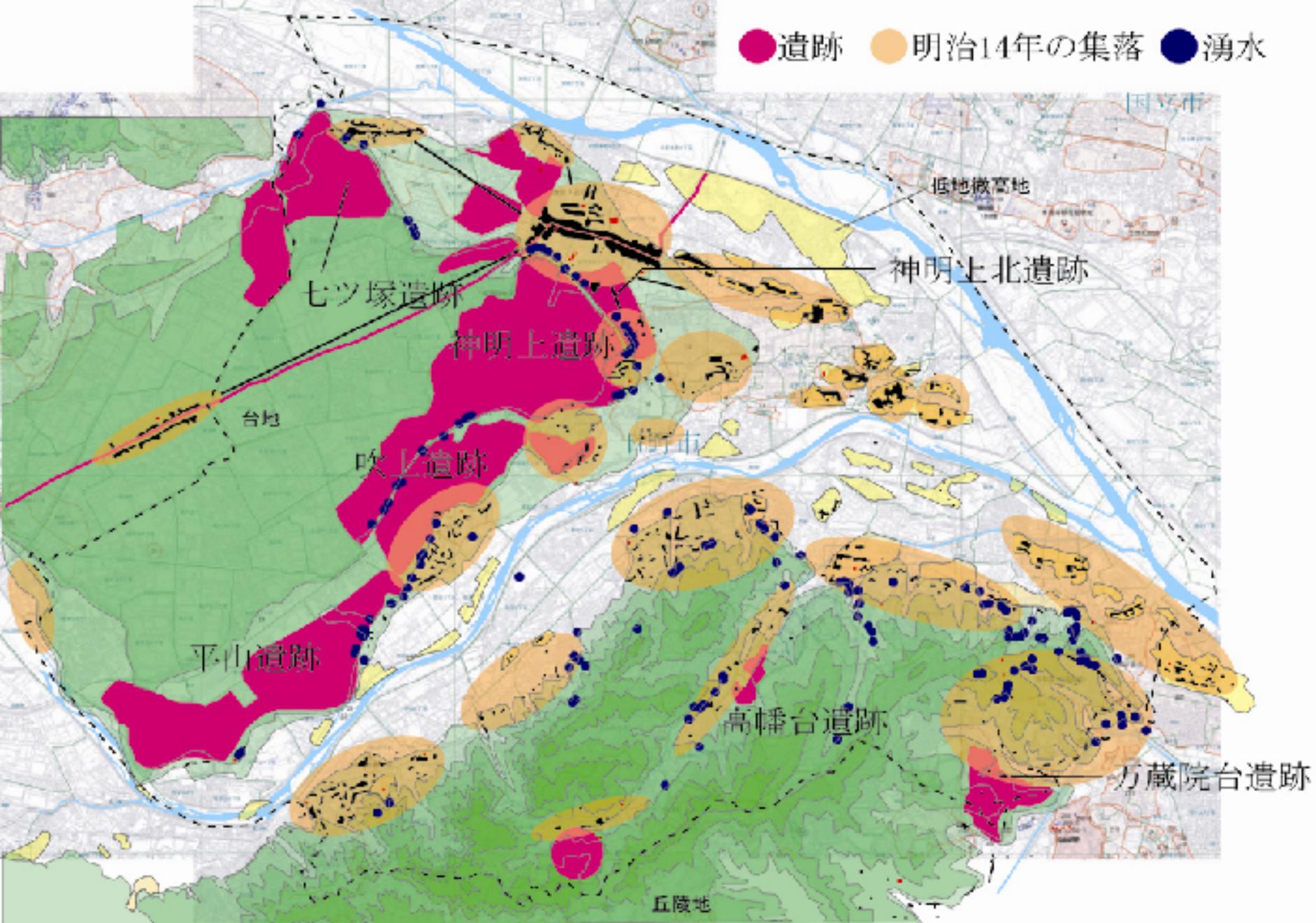
日野の都市と地域の風景を読む

歴史とエコロジーを結びつける

従来は水路ばかりが主体だった ルーラル・ランドスケープ全体へ
地形、山・湧水・川・用水、古道、街道、寺社、集落、遺跡、農地・・・



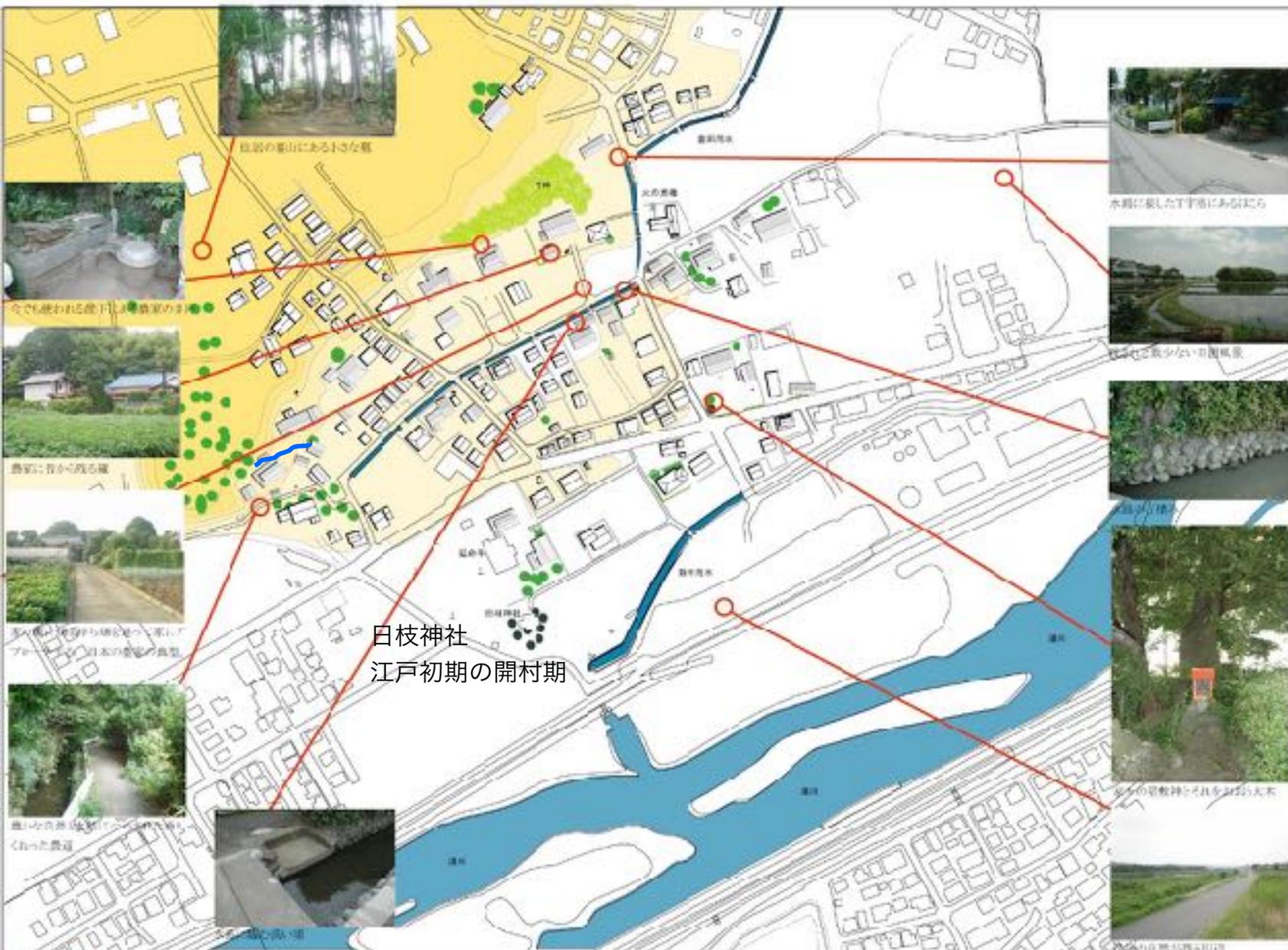
● 遺跡 ● 明治14年の集落 ● 湧水



縄文時代中期

川辺堀之内地区

水路を中心に発展した農村



丘の裏にある小さな森



水路に架した丁字橋にある丁字路



水路に架した丁字橋にある丁字路



水路に架した丁字橋



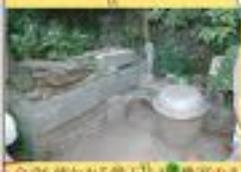
産霊神の御神木



産霊神の御神木



産霊神の御神木



産霊神の御神木



産霊神の御神木



産霊神の御神木



産霊神の御神木



産霊神の御神木



1:500

水の郷 日野



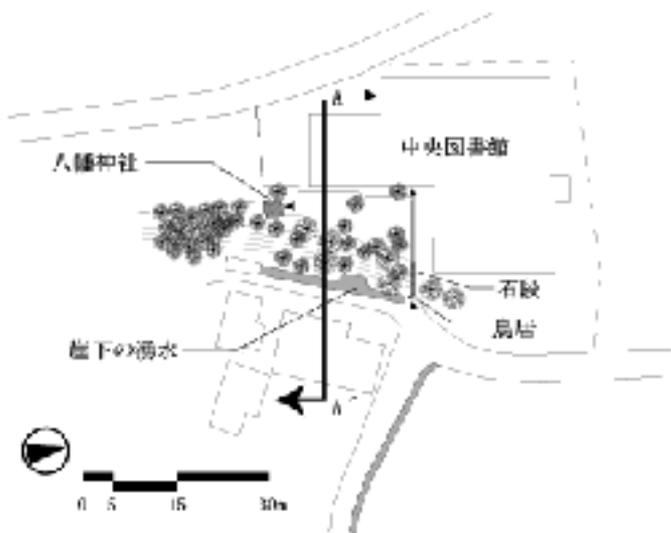
豊田用水沿いの邸宅



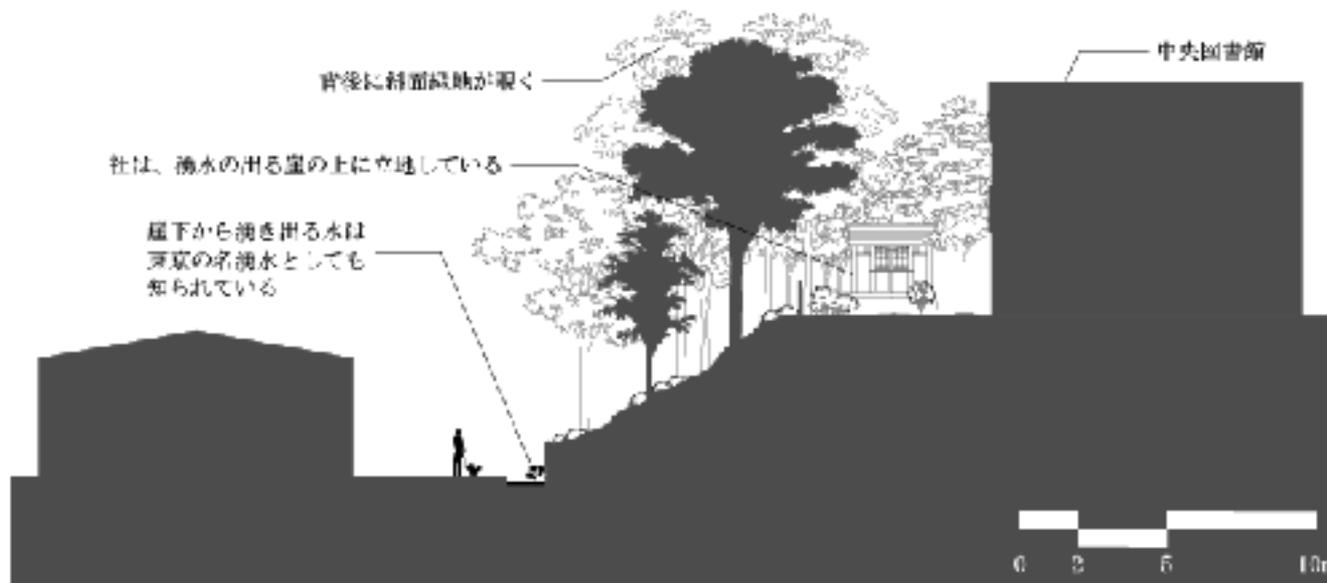
日野用水(よそう森公園)

(石渡雄士撮影)

豊田 湧水と聖域（神社）



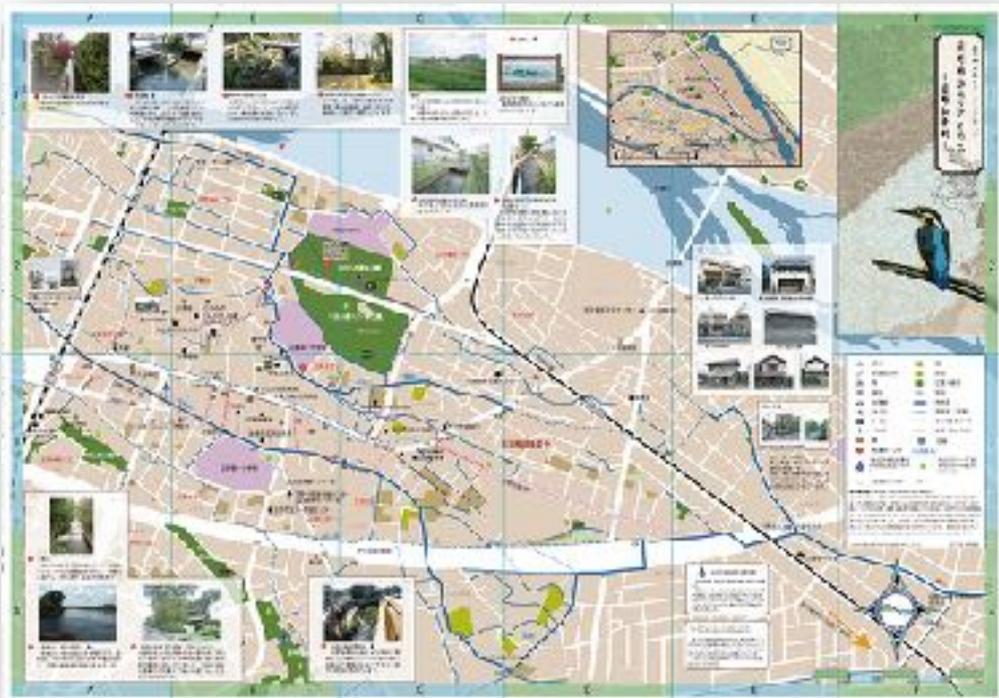
八幡神社配置図



八幡神社 A-A' 連続断面図 1/300

図版作成：鈴木順子
磯絵理子
写真撮影：鈴木知之

水の郷日野 エコミュージアムマップ



- 豊田用水エリア
- 平山・南平エリア
- 向島用水エリア
- 日野用水エリアその1
- 日野用水エリアその2



- 日野用水エリアマップ完成フォーラム
『用水のまち・魅力再発見』
日時：3月1日（日）13時半～
会場：日野市中央福祉センター

国分寺市本村「お鷹の道」周辺 崖線と湧水群

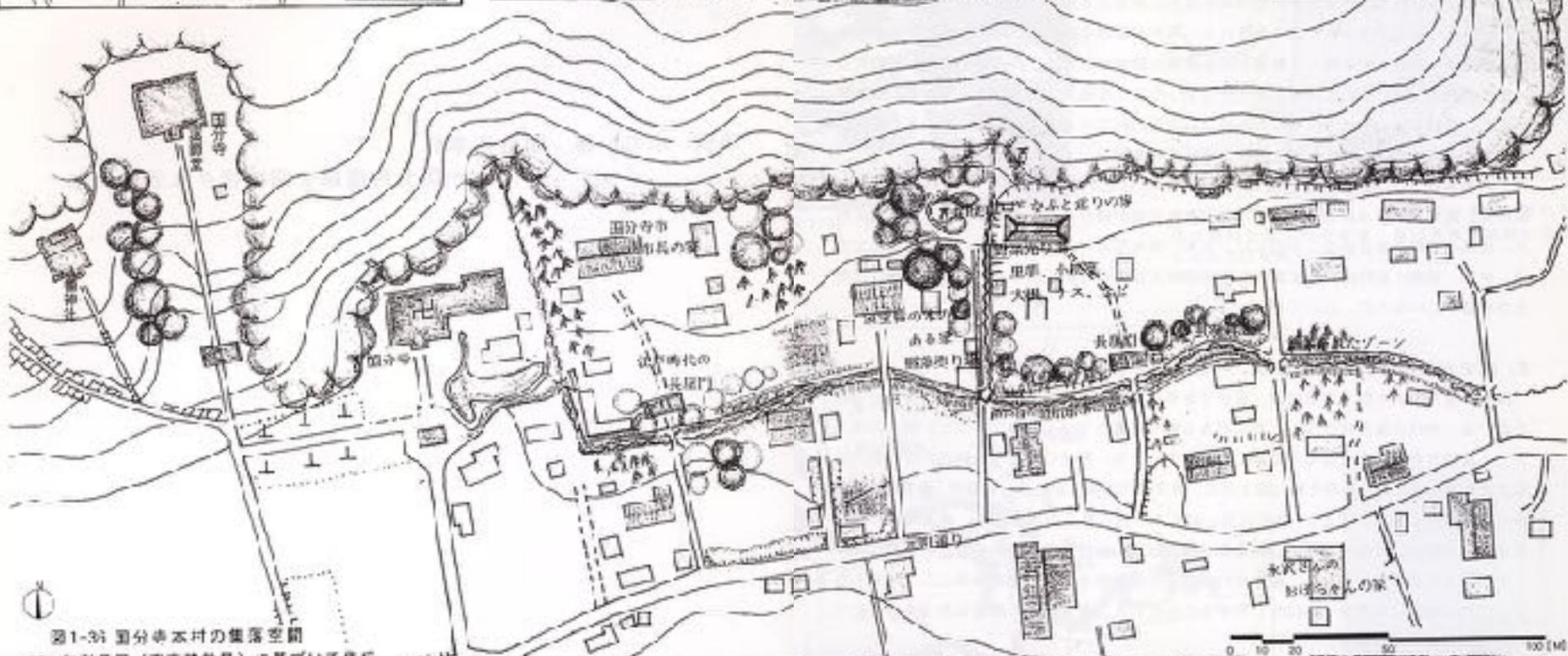


図1-36 国分寺本村の集落空間
1953年測量図(東京建設局)に基づいて作成



国分寺 お鷹の道

1985年 環境省選定名水百選のひとつ（お鷹の道・真姿の池湧水群）



真姿の池（弁財天）
お鷹の道

平安時代の9世紀半ば、皮膚の病に冒されて醜くなってしまった絶世の美女玉造小町が、武蔵国分寺で願をかけたところ、「池で身を清めよ」との霊示を受け、そのとおりにしたところ、病気はたちどころに治り、以前と変わらぬ美しい姿（真

お鷹の道



湧水の流れを「カワ」と呼び、水道が引かれまで、飲み水、炊事や風呂の水、洗い物（野菜、米、洗濯）など一切をまかっていたという。水路に設けられた洗い場は「川所（かわど）」と呼ばれ、特に地元の人々は、水音から「ボンボ」という可愛らしい名前を呼ぶ。

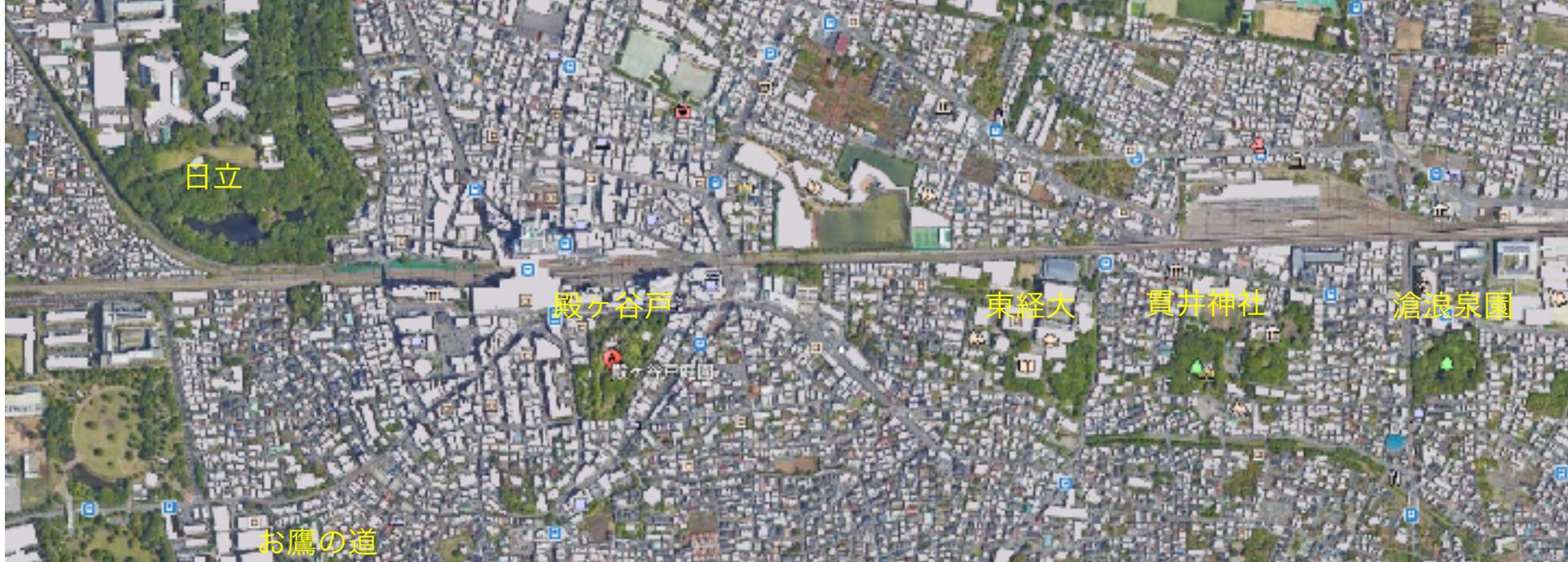


「真姿の池」の東隣の屋敷
南側に長屋門、奥に兜造りの母屋



江戸時代後期の長屋門
名主を歴任した本多家の敷地南側





国分寺崖線 谷戸の連続 (田中正大)
国分寺崖線のうち湧水によって窪地ができたところがハケだ。

4-2図 殿ヶ谷戸庭園地形図 10000分の1「国分寺」(1939)より

殿ヶ谷戸庭園

江口定條(満鉄副総裁→貴族院議員)の別荘 大正初
岩崎彦彌太(三菱合資会社)の手に、建物、庭園を完成

谷戸の湧水を活かした近代庭園の代表
昭和40年代 開発計画、住民運動、都が買収 一般公開



湧水:毎分37リットル

立川駅

80～60年前の国立

国立駅

学園都市の開発（351号）

1924分譲開始

立川段丘の畑地

甲州街道沿いの集落地

谷保駅

- ・ 戦後間もない頃の谷保地域（「写真でみる国立」、国立郷土文化館、2002.10より）

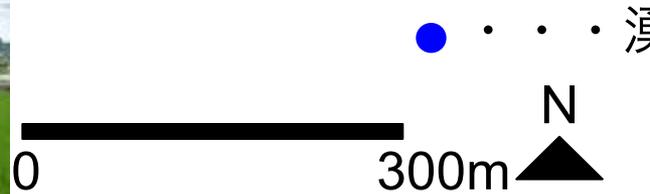
青柳崖線が低地と段丘を区分

谷保の水田地帯

高橋賢一氏（法政工コ研）提供

谷保地区

地形・宗教施設・城館・湧水





国立



田植えする谷保の人々／1960年代
「写真でみる国立」（国立郷土文化館、2002.10）より転載



撮影 鈴木知之

水の都市 江戸・東京

陣内秀信 法政大学陣内研究室 編



「水都学」誕生!

都心や下町の川・濠・運河から、湾岸、郊外の「水の郷」まで
歴史とエコロジーの視点から一望する“知的ガイドブック”

講談社

2013年

江戸東京のテリトリーオの河川網

[東都近郊図] 品川歴史館蔵

水の都市の概念を転換、拡大

下町・都心の低地だけが「水の都市」なのではない

江戸城/皇居のまわりの外濠も

山の手も

武蔵野・多摩も

東京全体が水の都市

江戸城/皇居がその要に象徴として位置する

